

---

敦賀発電所2号炉  
敷地の地形, 地質・地質構造について  
(コメント回答)  
補足説明資料4  
誤記一覧表(その1)

令和3年7月16日  
日本原子力発電株式会社

余白

- 本資料は、第865回審査会合以降に抽出した審査資料に係る誤記等のうち、今回提出の10孔のボーリングに関わるものについて、一覧表として取りまとめたものである。
- 誤記等のうち、変位センス等性状のエビデンスは、一覧表の「エビデンス資料」欄に記載の資料に示している。

(注)一覧表の説明

- 「誤った記載の資料」欄は、誤った記載をしていた資料を示している。  
(例:申請書柱状図～審査資料(第833回)の場合は、申請書から第833回審査会合までの資料に誤記があることを示している。)
- 「誤記等の内容」欄の【】内は、誤記の内容の訂正又は補足説明を記載している。
- 「今回提出柱状図」欄は、元データの誤記の修正を行ったものは「修正」、柱状図の記事欄を元データとすることにより記載がなくなるものは「記載なし」、元データが正しかったものは「-」としている。
- 「エビデンス資料」欄の審査資料は、下表の資料に対応し、その他のエビデンスは一覧表の後に添付している。「-」は、単純な誤記、記載の適正化の場合を示す。

エビデンス資料	対応する審査資料
報告書柱状図	第865回審査会合 机上配布資料2
コア観察カード	第916回審査会合 机上配布資料1
報告書作成用柱状図	第916回審査会合 机上配布資料1
コア写真	今回提出の補足説明資料1
再観察結果	今回提出の補足説明資料2
薄片観察結果	今回提出の補足説明資料3

- 「誤記等について記載している資料」欄は、これまでの審査会合で当該誤記等について説明している資料を示している。「-」は、「誤記等の内容」欄の【】内の補足説明を参照。

# 誤記一覧表(1/4:柱状図)

NO.	孔名	深度		誤った記載の資料	誤記等の内容		今回提出柱状図	エビデンス資料	誤記等について記載している資料		
		上端深度	下端深度		誤	正			回数	資料	頁
1	H24-D1-1	4.33	5.05	申請書柱状図 ~ 審査資料(第833回)	径5~30mmの花崗斑岩の硬質礫を含む。	径2~80mmの垂円~垂角礫を含む。	—	報告書柱状図	865	資料2-2-2	補足2-11-3
2	H24-D1-1	5.05	5.45	申請書柱状図	深度 5.05~5.45m:	深度 5.05~5.45m	—	—	865	資料2-2-2	補足2-11-3
3	H24-D1-1	45.91	48.28	審査資料(第536回) ~ 審査資料(第657回)	左ずれセンス	左ずれ正断層センス	記載なし	薄片観察結果	865	資料2-2-2	補足2-11-6
4	H24-D1-1	49.20	49.91	審査資料(第536回) ~ 審査資料(第657回)	西上がりセンス	正断層センス	記載なし	薄片観察結果	865	資料2-2-2	補足2-11-7
5	H24-D1-1	68.84	69.00	審査資料(第536回) ~ 審査資料(第657回)	西上がり及び西下がりセンス	逆断層センス	記載なし	薄片観察結果	865	資料2-2-2	補足2-11-11
6	H24-D1-1	89.91	89.95	申請書柱状図	正断層センス	右ずれ正断層センス	記載なし	薄片観察結果	865	資料2-2-2	補足2-11-14
7	H24-D1-1	99.68	99.71	審査資料(第536回) ~ 審査資料(第833回)	上端境界の傾斜は65°である。	下端境界の傾斜は65°である。	—	報告書柱状図	865	資料2-2-2	補足2-11-17
8	H27-B-1	12.10	12.49	コア観察カード	深度 12.10~12.50m	深度 12.10~12.49m	修正	コア観察カード(深度欄)	916	資料1-2-1	補足1-6-6
9	H27-B-1	34.54	34.59	審査資料(第536回) ~ 審査資料(第657回)	左ずれセンス	左ずれ逆断層センス	記載なし	薄片観察結果	865	資料2-2-2	補足2-12-9
10	H27-B-1	44.53	44.83	審査資料(第536回) ~ 審査資料(第657回)	左ずれセンス	左ずれ逆断層センス	記載なし	薄片観察結果	865	資料2-2-2	補足2-12-12
11	H27-B-1	49.17	49.27	申請書柱状図	深度 49.17~49.20m	深度 49.17~49.27m	—	コア観察カード	916	資料1-2-1	補足1-6-20
12	H27-B-1	49.17	49.22	申請書柱状図	深度 49.17~49.20m	深度 49.17~49.22m	記載なし	再観察結果	865	資料2-2-2	補足2-12-15
13	H27-B-1	49.17	49.22	申請書柱状図 ~ 審査資料(第833回)	下端23°	下端35~60°	—	コア観察カード 再観察資料	916	資料1-2-1	補足1-11-8,9
14	H27-B-1	49.17	49.22	申請書柱状図 ~ 審査資料(第657回)	右ずれセンス	右ずれ正断層センス	記載なし	薄片観察結果	865	資料2-2-2	補足2-12-15
15	H27-B-1	52.72	52.81	審査資料(第536回) ~ 審査資料(第657回)	右ずれセンス	左ずれセンス	記載なし	薄片観察結果	865	資料2-2-2	補足2-12-16
16	H27-B-1	53.17	53.22	審査資料(第536回)	記載なし	主に明褐灰色の固結礫状部からなる。	記載なし	コア観察カード	865	資料2-2-2	補足2-12-17
17	H27-B-1	69.70	69.73	申請書柱状図	走向・傾斜 N25° E82° W	走向・傾斜 N25° E82° E	記載なし	(BHTV結果)	865	資料2-2-2	補足2-12-20
18	H27-B-1	74.36	74.50	申請書柱状図 ~ 審査資料(第833回)	下端30°	不明	—	コア観察カード	865 916	資料2-2-2 資料1-2-1	補足2-12-21 補足1-6-28
19	H27-B-1	74.36	74.50	申請書柱状図	走向・傾斜 N15° E87° W	走向・傾斜 N15° E85° W	記載なし	(BHTV結果)	865	資料2-2-2	補足2-12-21
20	H27-B-1	75.57	76.00	審査資料(第536回) ~ 審査資料(第833回)	下端68°	不明	—	コア観察カード	865	資料2-2-2	補足2-12-22
21	H27-B-1	78.72	78.87	申請書柱状図 ~ 審査資料(第657回)	右ずれセンス	右ずれ正断層センス	記載なし	薄片観察結果	865	資料2-2-2	補足2-12-23
22	H27-B-1	113.51	113.60	審査資料(第536回) ~ 審査資料(第657回)	右ずれセンス	右ずれ正断層センス	記載なし	薄片観察結果	865	資料2-2-2	補足2-12-28
23	H27-B-2	0.70	12.33	申請書柱状図	300mmm	300mm	—	—	916	資料1-2-1	補足1-7-3
24	H27-B-2	31.15	31.66	申請書柱状図	走向・傾斜 N7° 78° W	走向・傾斜 N7° E78° W	記載なし	(BHTV結果)	865	資料2-2-2	補足2-13-7
25	H27-B-2	31.15	31.66	申請書柱状図	灰黄色	灰黄褐色	—	コア観察カード	916	資料1-2-1	補足1-7-11
26	H27-B-2	34.37	34.48	申請書柱状図	走向・傾斜 N14° W40° W	走向・傾斜 N18° E46° W	記載なし	(BHTV結果)	865	資料2-2-2	補足2-13-8
27	H27-B-2	35.68	35.73	申請書柱状図	灰黄色	灰黄褐色	—	コア観察カード	916	資料1-2-1	補足1-7-14
28	H27-B-2	35.92	35.95	申請書柱状図	走向・傾斜 N4° E86° W	走向・傾斜 N4° E86° E	記載なし	(BHTV結果)	865	資料2-2-2	補足2-13-11
29	H27-B-2	48.08	48.12	コア観察カード ~ 申請書柱状図	深度 48.88~48.92m	深度 48.08~48.12m	修正	(コア観察カード×印記載関係所)	916	資料1-2-1	補足1-7-19
30	H27-B-2	48.08	48.12	申請書柱状図	深度 48.88~48.92m	深度 48.08~48.12m	修正	(コア観察カード×印記載関係所)	865	資料2-2-2	補足2-13-12
31	H27-B-2	48.08	48.12	申請書柱状図	走向・傾斜 N40° E76° W	走向・傾斜 N38° W15° NE	記載なし	(BHTV結果)	865	資料2-2-2	補足2-13-12
32	H27-B-2	48.08	48.12	申請書柱状図 ~ 審査資料(第833回)	上端境界の傾斜は56° 下端境界の傾斜は53°	上端境界の傾斜は53° 下端境界の境界は56°	修正	(コア観察カード×印記載関係所)	865	資料2-2-2	補足2-13-12

# 誤記一覧表(2/4:柱状図)

NO.	孔名	深度		誤った記載の資料	誤記等の内容		今回提出柱状図	エビデンス資料	誤記等について記載している資料		
		上端深度	下端深度		誤	正			回数	資料	頁
33	H27-B-2	60.26	60.69	申請書 柱状図 ~ 審査資料 (第833回)	~下盤境界の傾斜は27°である。	~下盤境界の傾斜は37°である。	—	コア観察カード	916	資料1-2-1	補足1-7-24 (補足1-11-10, 11)
34	H27-B-2	60.26	60.69	審査資料 (第536回)	褐灰色の固結粘土状部からなる。	明褐灰色の固結した粘土状部からなる。	記載なし	コア観察カード 再観察資料	865	資料2-2-2	補足2-13-15
35	H27-B-2	60.26	60.69	審査資料 (第536回) ~ 審査資料 (第657回)	逆断層センス	右ずれ逆断層センス	記載なし	薄片観察結果	865	資料2-2-2	補足2-13-15
36	H27-B-2	68.05	68.12	コア観察 カード ~ 申請書 柱状図	深度 68.27~68.34m	深度 68.05~68.12m 【第865回審査会合 補足説明資料2及び第 916回審査会合 補足説明資料1の深度68.02 ~68.06mが誤り】	修正	(コア観察カード×印記 載関係箇所)	—	—	—
37	H27-B-2	68.02	68.06	申請書柱状図	深度 68.27~68.34m	深度 68.02~68.06m	記載なし	再観察結果	865	資料2-2-2	補足2-13-18
38	H27-B-2	68.02	68.06	申請書 柱状図 ~ 審査資料 (第833回)	上端境界の傾斜は41° 下端境界の傾斜は20° ~40°	上端境界の傾斜は40° 下端境界の境界は30°	記載なし	再観察結果	865	資料2-2-2	補足2-13-18
39	H27-B-2	85.58	85.76	審査資料 (第536回) ~ 審査資料 (第657回)	正断層センス	右ずれ正断層センス	記載なし	薄片観察結果	865	資料2-2-2	補足2-13-21
40	H27-B-2	88.38	88.43	申請書柱状図	右ずれセンス	右ずれ正断層センス	記載なし	薄片観察結果	865	資料2-2-2	補足2-13-22
41	H27-B-2	88.88	88.94	申請書柱状図	右ずれセンス	右ずれ正断層センス	記載なし	薄片観察結果	865	資料2-2-2	補足2-13-23
42	H27-B-2	91.69	91.76	申請書 柱状図 ~ 審査資料 (第657回)	右ずれセンス	右ずれ逆断層センス	記載なし	薄片観察結果	865	資料2-2-2	補足2-13-24
43	H27-B-2	120.63	120.65	申請書柱状図	深度 120.53~120.55m	深度 120.63~120.65m	—	コア観察カード	865 916	資料2-2-2 資料1-2-1	補足2-13-28 補足1-7-44
44	H27-B-2	120.63	120.65	申請書 柱状図 ~ 審査資料 (第657回)	左ずれセンス	左ずれ逆断層センス	記載なし	薄片観察結果	865	資料2-2-2	補足2-13-28
45	H27-B-2	123.41	125.38	コア観察カード	深度 133.41~125.38m	深度 123.41~125.38m	修正	コア観察カード (岩級区分欄)	916	資料1-2-1	補足1-7-45
46	H27-B-2	134.23	134.77	コア観察カード	粗粒玄武岩(ドレライト)	アブライト	修正	コア観察カード	916	資料1-2-1	補足1-7-50
47	H27-B-2	136.54	136.56	申請書柱状図	暗緑灰色	緑黒色	—	コア観察カード (色調欄)	916	資料1-2-1	補足1-7-50
48	H27-B-2	154.53	154.71	申請書 柱状図 ~ 審査資料 (第833回)	~, 下盤境界に傾斜は65° ~80°である。	~, 下盤境界に傾斜は65° ~70°である。	—	コア観察カード	916	資料1-2-1	補足1-7-56 (補足1-11-12, 13)
49	H24-B14-2	28.50	28.66	申請書柱状図	深度 28.50~28.68m	深度 28.50~28.66m	—	報告書作成用柱状図	916	資料1-2-1	補足1-5-6 (補足1-11-6,7)
50	H24-B14-2	28.50	28.66	申請書柱状図	正断層センス	左ずれ正断層センス	記載なし	薄片観察結果	865	資料2-2-2	補足2-10-7
51	H24-B14-2	47.37	47.40	申請書 柱状図 ~ 審査資料 (第657回)	右ずれセンス	右ずれ逆断層センス	記載なし	薄片観察結果	865	資料2-2-2	補足2-10-10
52	H24-B14-2	47.37	47.40	審査資料 (第536回) ~ 審査資料 (第657回)	灰白色の未固結粘土状部:累計幅1.0cm	記載なし	記載なし	報告書作成用柱状図	865	資料2-2-2	補足2-10-10
53	H24-B14-2	82.13	89.74	申請書柱状図	深度 82.13~89.71m	深度 82.13~89.74m	記載なし	報告書作成用柱状図	916	資料1-2-1	補足1-5-14
54	H24-B14-2	60.85	61.12	申請書柱状図	走向・傾斜 N35° E88° NW	走向・傾斜 N1° E83° E	記載なし	(BHTV結果)	865	資料2-2-2	補足2-10-13
55	H24-B14-2	101.47	101.52	申請書柱状図	記載なし	粘土質砂状	—	報告書作成用柱状図	916	資料1-2-1	補足1-5-16
56	H24-B14-2	105.54	105.61	申請書柱状図	記載なし	オリブ灰色のシルト混り砂礫状	—	報告書作成用柱状図	916	資料1-2-1	補足1-5-17
57	H24-B14-2	110.95	111.16	報告書作成用 柱状図 ~ 申請書 柱状図	深度 110.95~111.16mm	深度 110.95~111.16m	修正	—	865 916	資料2-2-2 資料1-2-1	補足2-10-20 補足1-5-18
58	H24-B14-2	132.00	133.00	報告書作成用 柱状図 ~ 申請書 柱状図	深度 132.00~133.00	深度 132.00~133.00m	修正	—	865 916	資料2-2-2 資料1-2-1	補足2-10-23 補足1-5-21
59	H24-D1-2	21.50	23.18	申請書 柱状図 ~ 審査資料 (第833回)	~, 角礫状を呈する。	~, 岩片~短柱状を呈する。	—	報告書柱状図 (コア形状欄)	865	資料2-2-2	補足2-1-6
60	H24-D1-2	31.44	31.46	申請書柱状図	右ずれ正断層センス	右ずれセンス	記載なし	薄片観察結果	865	資料2-2-2	補足2-1-7
61	H24-D1-4	10.91	10.93	申請書柱状図	浅黄褐	—	—	報告書柱状図	865	資料2-2-2	補足2-3-4
62	H24-D1-4	27.75	28.43	申請書柱状図	右ずれ正断層センス	正断層センス	記載なし	薄片観察結果	865	資料2-2-2	補足2-3-6
63	H24-D1-4	52.97	53.46	審査資料 (第536回) ~ 審査資料 (第657回)	・主に灰白色の固結礫状部からなる。 ・褐灰色の未固結粘土状部:累計幅0.3cm	灰白色の固結礫状部からなる。	記載なし	再観察結果	865	資料2-2-2	補足2-3-8
64	H24-D1-4	63.67	63.90	申請書柱状図	礫混じり粘土状	粘土混じり礫状	—	報告書柱状図	865	資料2-2-2	補足2-3-10

# 誤記一覧表(3/4:柱状図)

NO.	孔名	深度		誤った記載の資料 審査資料 (第536回) ~ 審査資料 (第657回)	誤記等の内容		今回提出柱状図	エビデンス資料	誤記等について記載している資料		
		上端深度	下端深度		誤	正			回数	資料	頁
65	H27-B-3	56.69	56.72	審査資料 (第536回) ~ 審査資料 (第657回)	右ずれセンス	右ずれ正断層センス	記載なし	薄片観察結果	865	資料2-2-2	補足2-5-10
66	H27-B-3	58.89	58.98	申請書柱状図	褐色	褐灰色	—	コア観察カード	916	資料1-2-1	補足1-8-22
67	H27-B-3	76.59	76.89	申請書柱状図	左ずれセンス	左ずれ正断層センス	記載なし	薄片観察結果	865	資料2-2-2	補足2-5-14
68	H27-B-3	76.59	76.89	申請書柱状図	走向・傾斜 N41° E30° W	データなし	記載なし	(BHTV結果)	865	資料2-2-2	補足2-5-14
69	H27-B-3	91.35	91.54	申請書柱状図	呈ていする	呈する	—	—	865	資料2-2-2	補足2-5-16
70	H27-B-3	91.35	91.54	申請書柱状図	走向・傾斜 N64° W20° S	データなし	記載なし	(BHTV結果)	865	資料2-2-2	補足2-5-16
71	H27-B-3	101.78	104.28	申請書柱状図	深度 102.00~104.28m	深度 101.78~104.28m	—	コア観察カード	916	資料1-2-1	補足1-8-36
72	H27-B-3	119.11	119.25	申請書柱状図	正断層センス	右ずれ正断層センス	記載なし	薄片観察結果	865	資料2-2-2	補足2-5-21
73	H27-B-3	119.11	119.25	申請書柱状図	傾斜は60°である50。 上端境界は°	傾斜は60°である。 上端境界の傾斜は50°	—	コア観察カード	865 916	資料2-2-2 資料1-2-1	補足2-5-21 補足1-8-42
74	H27-B-3	129.84	129.91	申請書柱状図	走向・傾斜 N25° E24° E	走向・傾斜 N27° E86° E	記載なし	(BHTV結果)	865	資料2-2-2	補足2-5-22
75	H27-B-4	13.75	140.00	申請書柱状図	深度 13.75~144.00m	深度 13.75~140.00m 【余掘り区間のため】	—	コア観察カード	865	資料2-2-2	補足2-6-4
76	H27-B-4	15.91	16.36	申請書柱状図	正断層センス	右ずれ正断層センス	記載なし	薄片観察結果 (H27-B-4' 深度:23.97~24.42m)	865	資料2-2-2	補足2-6-4
77	H27-B-4	20.55	20.65	コア観察カード	深度 20.56~20.55m	深度 20.55~20.65m	修正	コア写真	916	資料1-2-1	補足1-9-10
78	H27-B-4	48.39	48.43	申請書柱状図	深度 48.30~48.33m	深度 48.39~48.43m	記載なし	再観察結果	865	資料2-2-2	補足2-6-9
79	H27-B-4	63.90	64.30	コア観察カード	深度 63.90~63.30m	深度 63.90~64.30m	修正	コア観察カード (変質欄)	916	資料1-2-1	補足1-9-18
80	H27-B-4	64.65	64.91	申請書柱状図	正断層センス 【第865回審査会合 補足説明資料2の右ずれ センスは誤り】	右ずれ正断層センス	記載なし	薄片観察結果	865	資料2-2-2	補足2-6-12
81	H27-B-4	67.28	67.75	コア観察カード	深度 67.28~67.78m	深度 67.28~67.75m	修正	コア観察カード (変質欄)	916	資料1-2-1	補足1-9-19
82	H27-B-4	140.00	141.42	申請書 柱状図 ~ 審査資料 (第833回)	記事全体	削除 【余掘り区間のため】	修正	—	865	資料2-2-2	補足2-6-21
83	H24-D1-5	47.47	47.89	申請書柱状図	右ずれ正断層センス	正断層センス	記載なし	薄片観察結果	865	資料2-2-2	補足2-4-9

# H27-B-1 深度69.70~69.73m 走向・傾斜

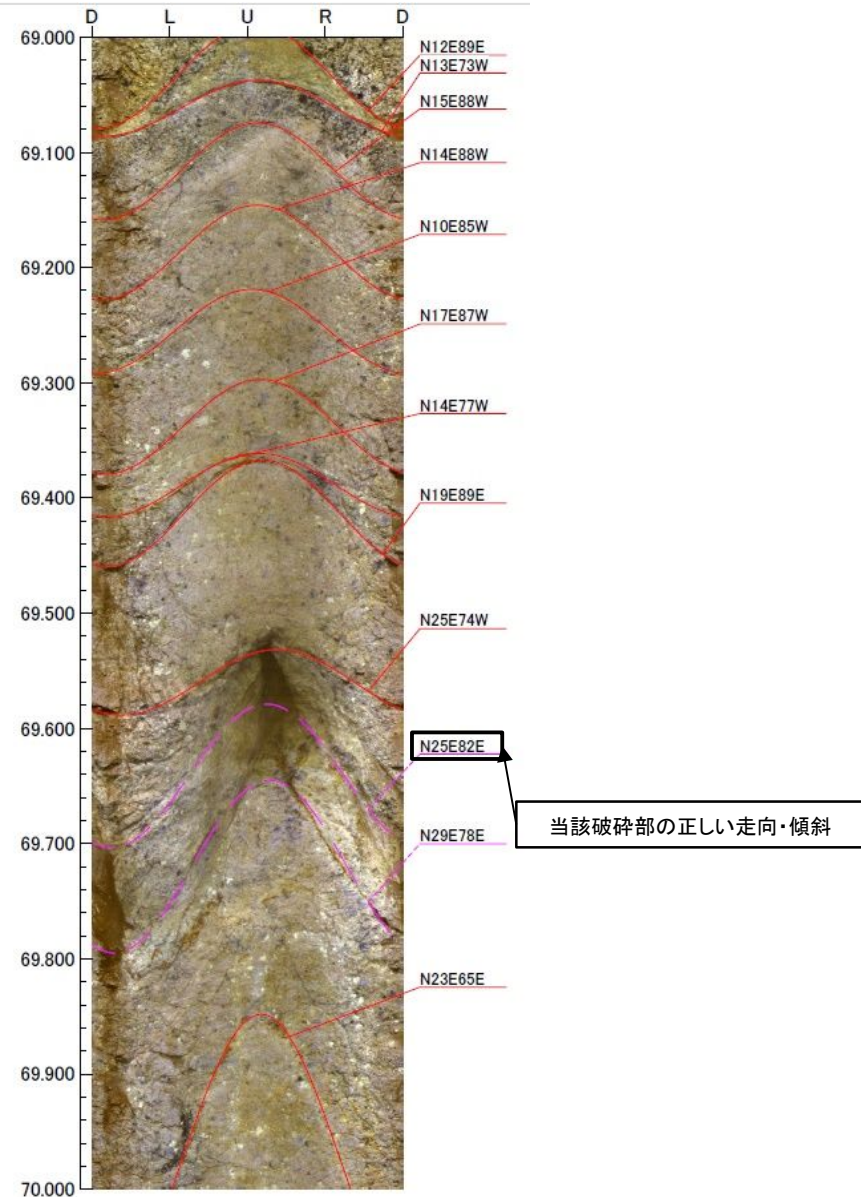
当該破碎部の走向・傾斜はBHTV孔壁展開画像で確認している。



凡 例  
 : 最新活動面 ← → : 破碎幅 : 断層ガウジ

70  
コア写真

(第833回審査会合 机上配布資料2)



BHTV孔壁展開画像

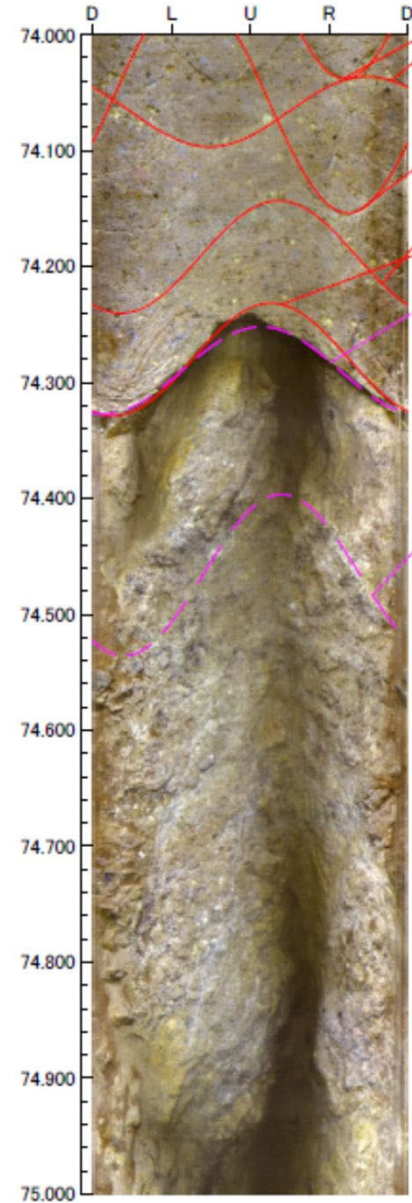
# H27-B-1 深度74.36~74.50m 走向・傾斜

当該破碎部の走向・傾斜はBHTV孔壁展開画像で確認している。



75  
コア写真

(第833回審査会合 机上配布資料2)



BHTV孔壁展開画像



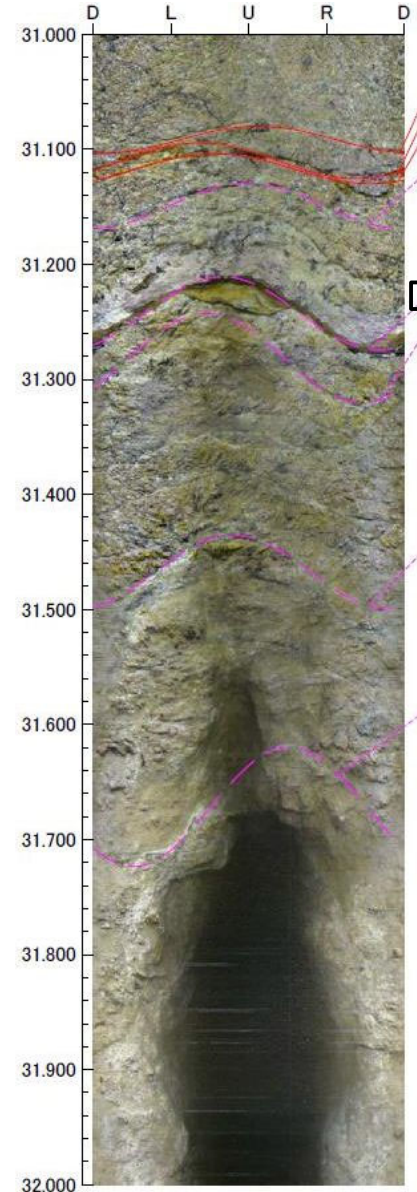
## H27-B-2 深度31.15~31.66m 走向・傾斜

当該破碎部の走向・傾斜はBHTV孔壁展開画像で確認している。



凡例  
 : 最新活動面 ← → : 破碎幅 : 断層ガウジ

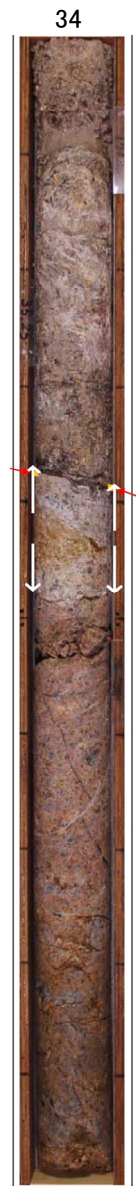
32  
 コア写真  
 (第833回審査会合 机上配布資料2)



BHTV孔壁展開画像

# H27-B-2 深度34.37~34.48m 走向・傾斜

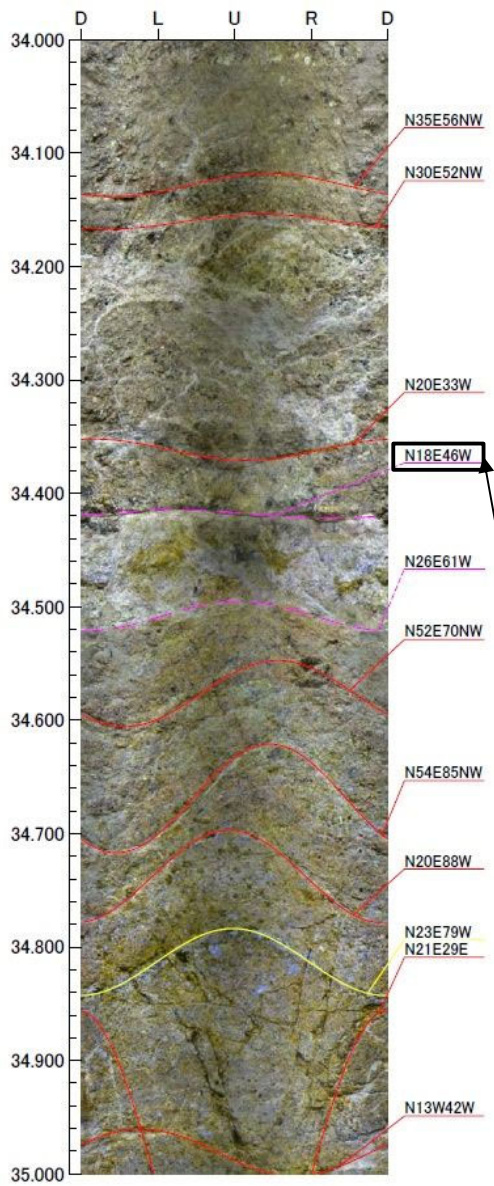
当該破碎部の走向・傾斜はBHTV孔壁展開画像で確認している。



凡例  
 最新活動面 ← → 破碎幅 断層ガウジ

35  
 コア写真

(第833回審査会合 机上配布資料2)

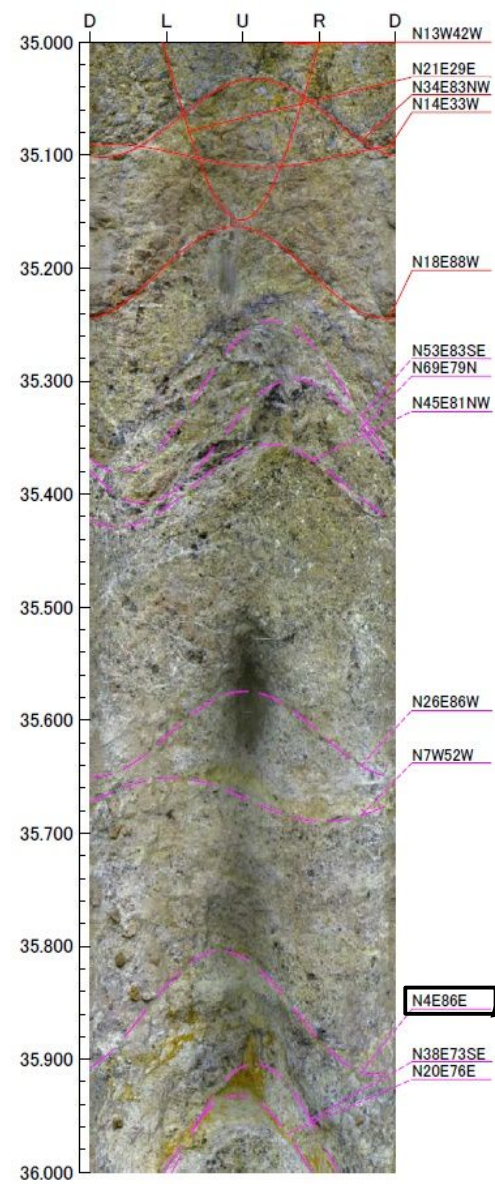


当該破碎部の正しい走向・傾斜

BHTV孔壁展開画像

# H27-B-2 深度35.92~35.95m 走向・傾斜

当該破碎部の走向・傾斜はBHTV孔壁展開画像で確認している。



当該破碎部の正しい走向・傾斜

コア写真  
(第833回審査会合 机上配布資料2)

BHTV孔壁展開画像

# H27-B-2 深度48.08~48.12m 走向・傾斜

当該破碎部の走向・傾斜はBHTV孔壁展開画像で確認している。



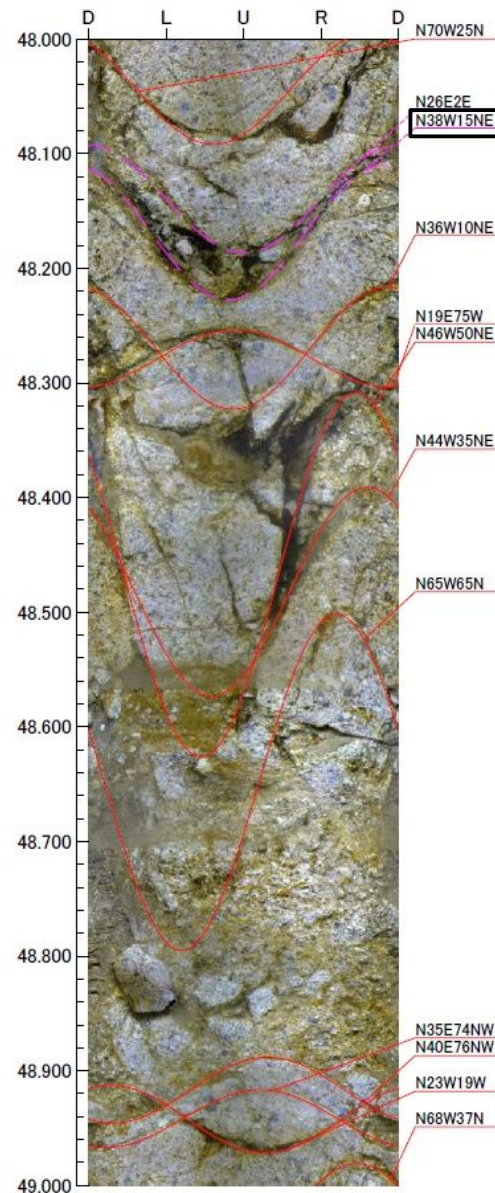
48

コア写真

(第833回審査会合 机上配布資料2)

凡例

- 最新活動面 (Red arrow)
- 破砕幅 (White arrow)
- 断層ガウジ (Yellow arrow)

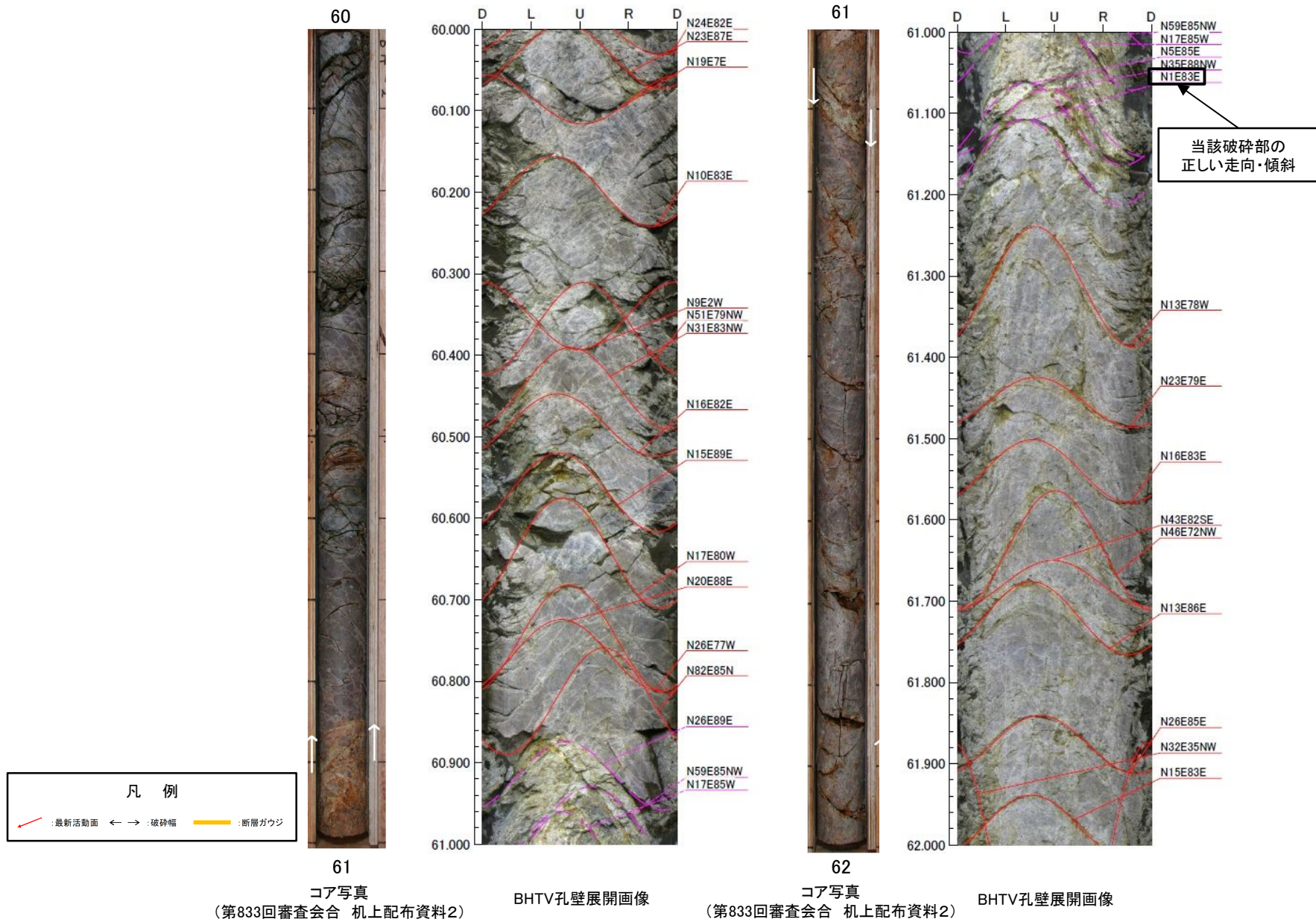


当該破碎部の正しい走向・傾斜

BHTV孔壁展開画像

## H24-B14-2 深度60.85~61.12m 走向・傾斜

当該破碎部の走向・傾斜はBHTV孔壁展開画像で確認している。



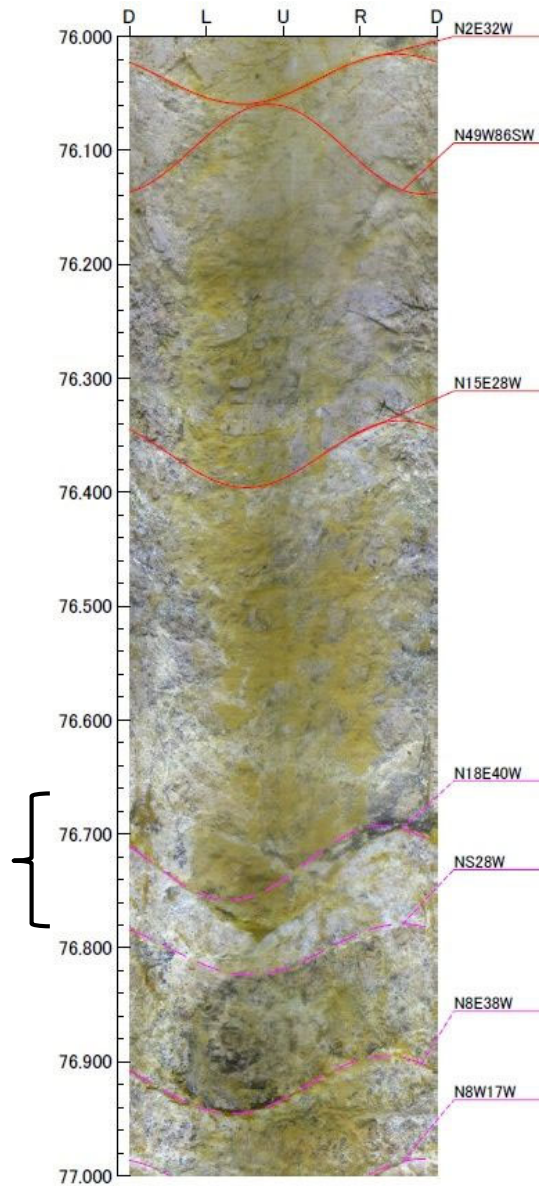
# H27-B-3 深度76.59~76.89m 走向・傾斜

当該破碎部の走向・傾斜はBHTV孔壁展開画像で確認できない。



凡例  
 : 最新活動面 ← → : 破碎幅 : 断層ガウジ

77  
 コア写真  
 (第833回審査会合 机上配布資料2)

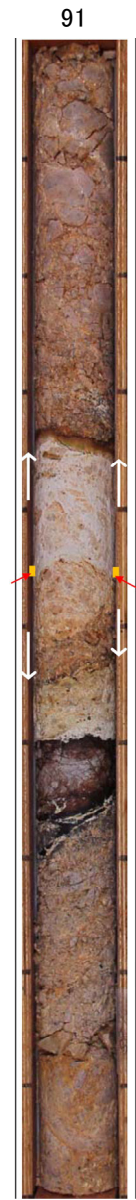


当該破碎部の  
 最新活動面が  
 読み取れない

BHTV孔壁展開画像

# H27-B-3 深度91.35~91.54m 走向・傾斜

当該破碎部の走向・傾斜はBHTV孔壁展開画像で確認できない。

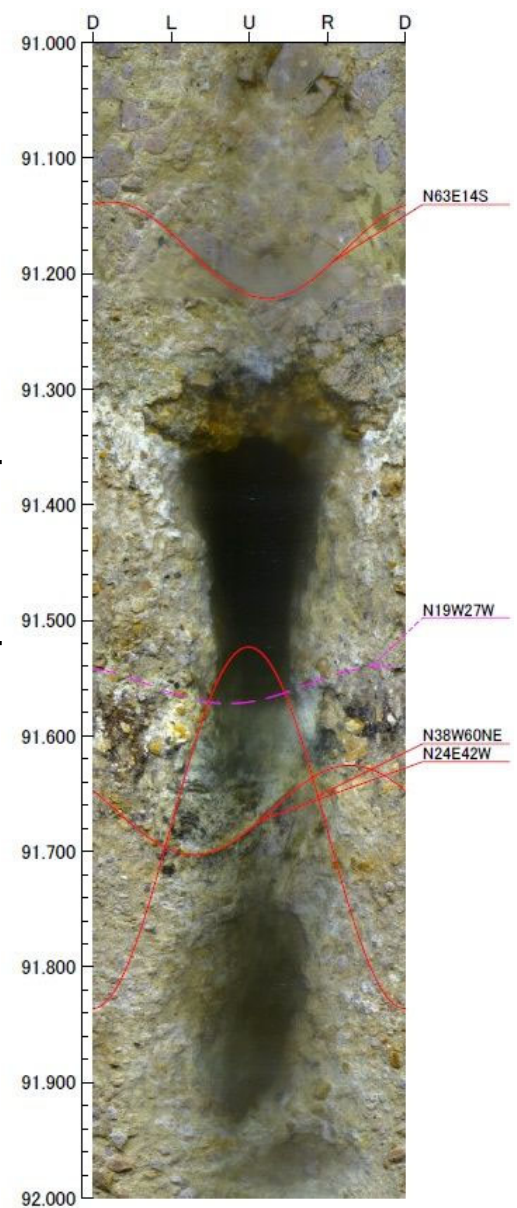


92  
コア写真

(第833回審査会合 机上配布資料2)

凡例  
 最新活動面 ← → 破碎幅 断層ガウジ

当該破碎部の  
最新活動面が  
読み取れない



BHTV孔壁展開画像

# H27-B-3 深度129.84~129.91m 走向・傾斜

当該破碎部の走向・傾斜はBHTV孔壁展開画像で確認している。



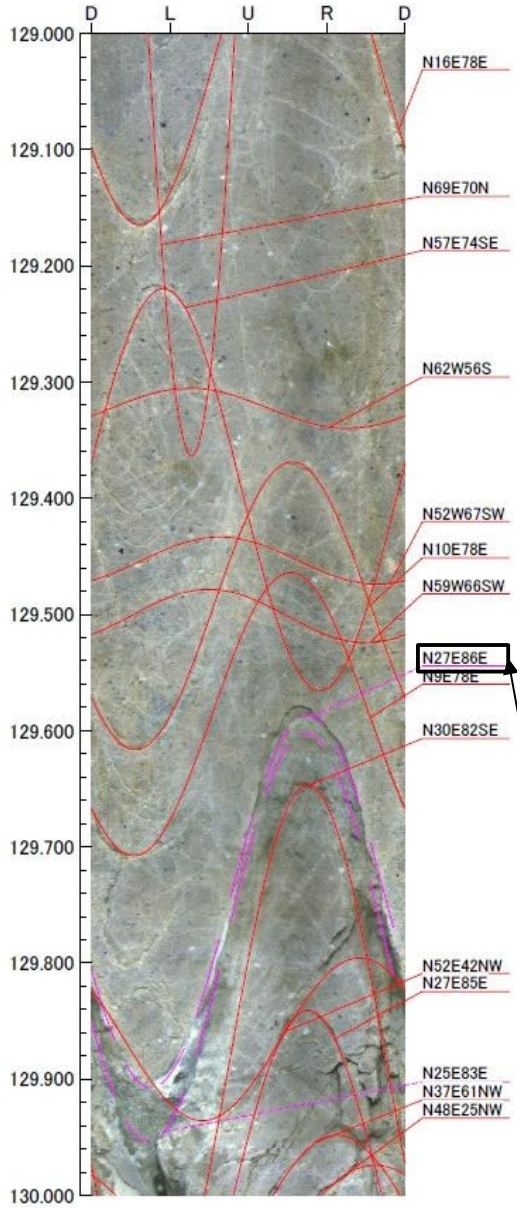
129

コア写真

(第833回審査会合 机上配布資料2)

凡例

- : 最新活動面
- ← → : 破碎幅
- : 断層ガウジ



当該破碎部の正しい走向・傾斜

BHTV孔壁展開画像




## 誤記一覧表(4/4:薄片観察結果)

No.	孔名	深度 <sup>※1</sup>		誤った記載の資料	誤記の内容	
		上端深度	下端深度		誤	正
84	H24-A-11	10.20	12.76	審査資料(第833回) 薄片観察結果	花崗斑岩	カタクレーサイト
85	H27-B-1	49.17	49.22	審査資料(第833回) 薄片観察結果	最新活動面の深度49.20m	最新活動面の深度49.17m
86	H27-B-1	53.17	53.22	審査資料(第833回) 薄片観察結果	花崗斑岩	カタクレーサイト
87	H27-B-1	59.82	59.85	審査資料(第833回) 薄片観察結果	N26° E80W	N20° E75W
88	H27-B-1	69.70	69.73	審査資料(第833回) 薄片観察結果	花崗斑岩	カタクレーサイト
89	H27-B-2	88.38	88.43	審査資料(第833回) 薄片観察結果	複合面構造の解釈線の修正	
90	H27-B-2	88.88	88.94	審査資料(第833回) 薄片観察結果	最新活動面の深度88.94m	最新活動面の深度88.91m
91	H24-D1-3	52.13	52.28	審査資料(第833回) 薄片観察結果	複合面構造の解釈線の位置の修正	
92	H27-B-3	42.85	42.91	審査資料(第833回) 薄片観察結果	花崗斑岩	カタクレーサイト
93	H27-B-3	76.59	76.89	審査資料(第833回) 薄片観察結果	花崗斑岩	カタクレーサイト
94	H27-B-3	129.84	129.91	審査資料(第833回) 薄片観察結果	カタクレーサイトの範囲表記の修正	
95	H24-H-6-1	9.58	14.36	審査資料(第833回) 薄片観察結果	シュミットネットの表示の修正	

※1: 深度は誤記一覧表(3/4)までに修正したもので表記している。

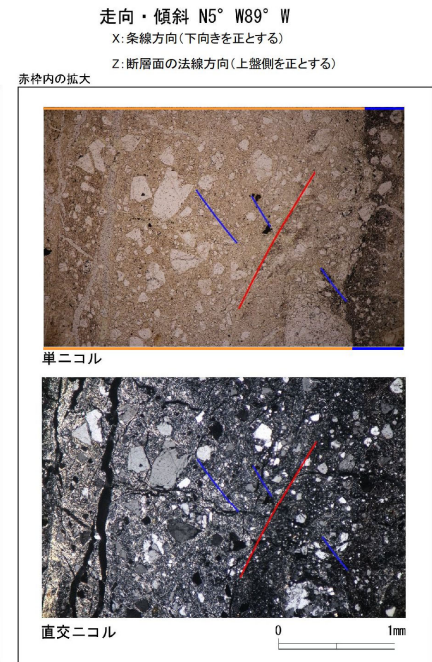
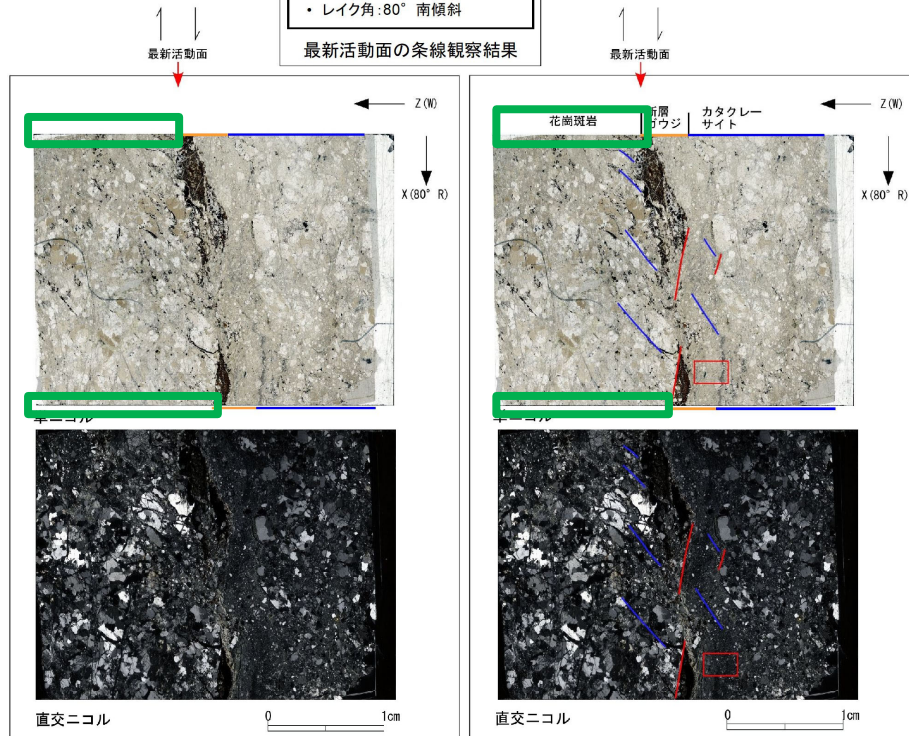
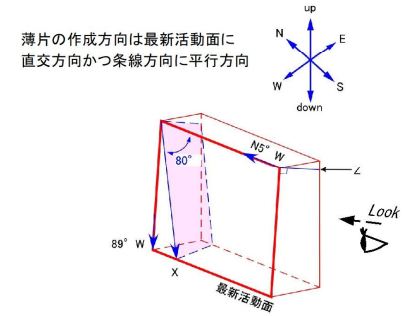
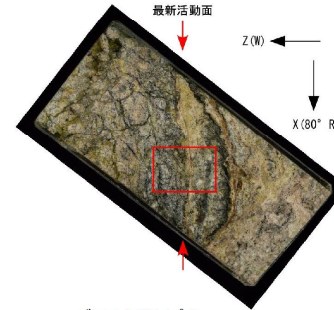
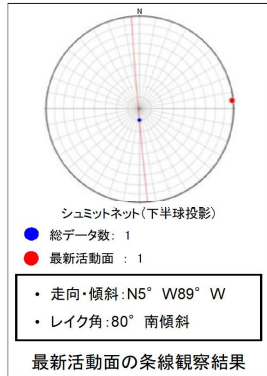
※2: 以降に修正前後の比較を示し、誤記の箇所だけに緑枠を付けている。





# K断層 薄片試料観察(H24-A-11 深度11.81m)

:修正箇所

修正前

H24-A-11のボーリングコア(深度11.81m)から採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面の変位センスは、逆断層成分が卓越する。



- 凡例
-  断層ガウジ
  -  カタクレーサイト
  -  R1面
  -  P面

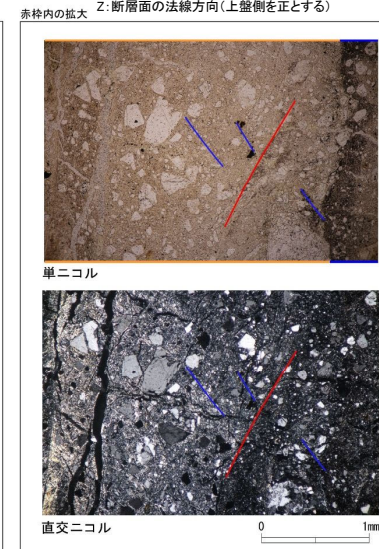
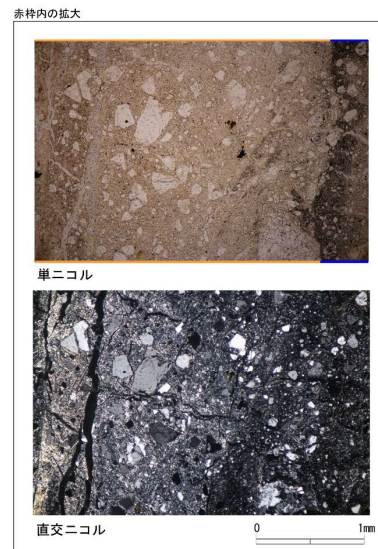
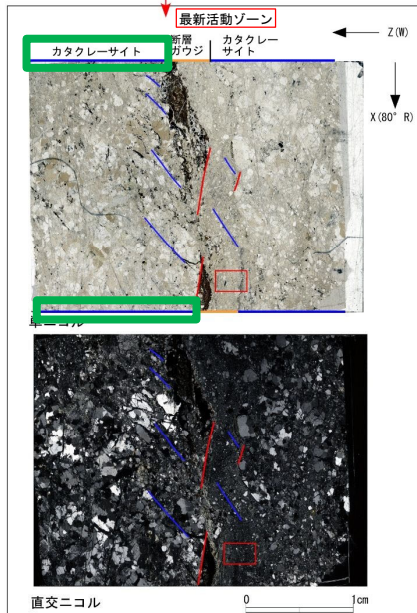
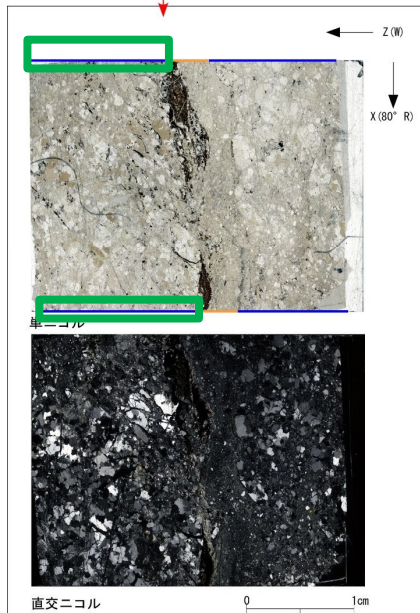
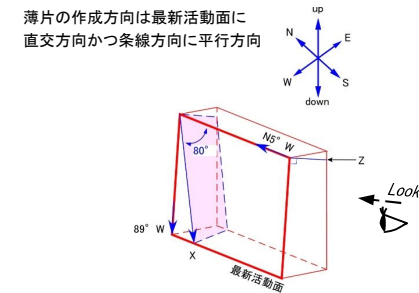
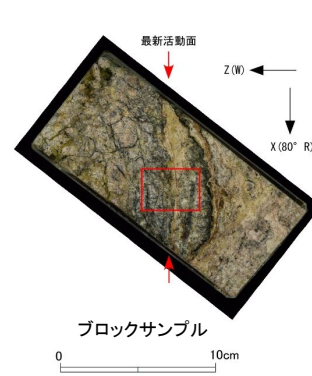
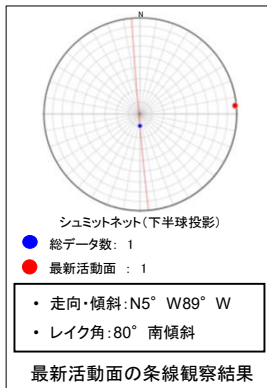
# H24-A-11 深度10.20~12.76m K断層(1/3)

   : 修正箇所

修正後

- ・H24-A-11のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度11.81m)の変位センスは、逆断層成分※が卓越する。
- ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層岩区分の考え方に照らして、断層ガウジを伴う破碎部であると判断した。
  - せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
  - 基質は粘土鉱物を主体とする。
  - 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
  - 岩片は少ない。
  - 角ばった岩片が多い。
  - ジグソー状の角礫群が認められる。

※ 横ずれ成分と縦ずれ成分の両者が見られる場合、「右(又は左)ずれを伴う正断層(又は逆断層)」と記載している。(以下、同様)



走向・傾斜 N5° W89° W  
X: 条線方向(下向きを正とする)

Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)

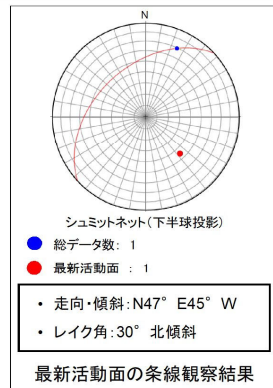
- 凡例
- 断層ガウジ
  - カタクレーサイト
  - R1面
  - P面

# 非モデル化破碎部 薄片試料観察 (H27-B-1 深度49.20m)

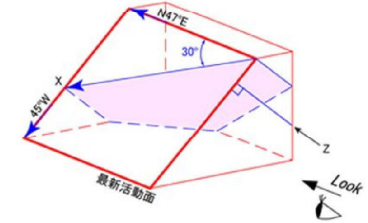
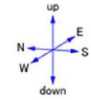
   : 修正箇所

修正前

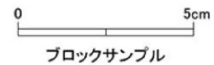
H27-B-1のボーリングコア(深度49.20m)から採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面の変位センスは、右ずれを伴う正断層である。



薄片の作成方向は最新活動面に直交方向かつ条線方向に平行方向

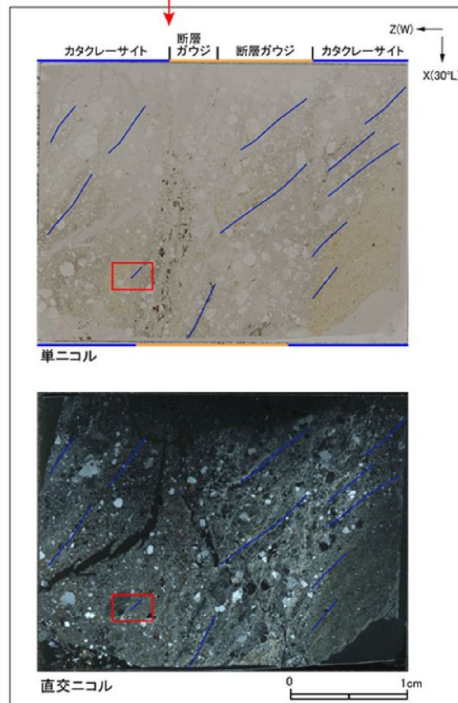
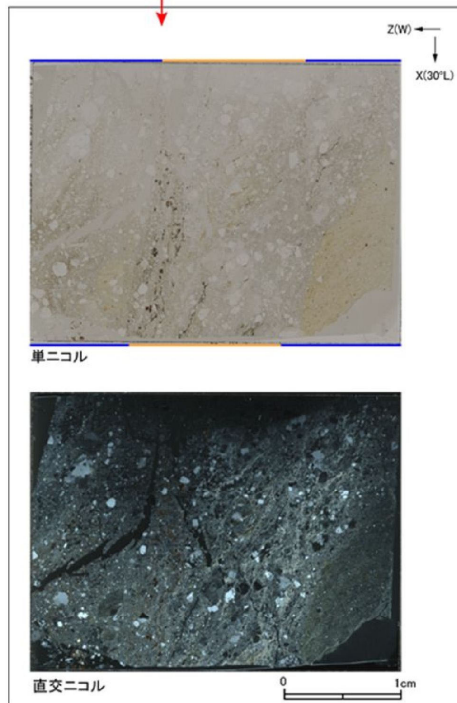


走向・傾斜 N47°E 45°W  
 X: 条線方向(下向きを正とする)  
 Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)

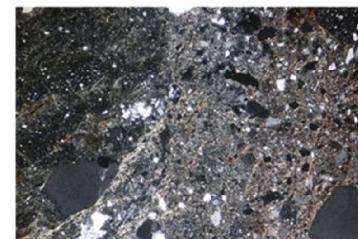
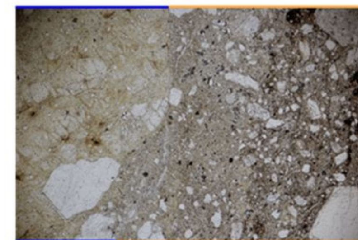


最新活動面

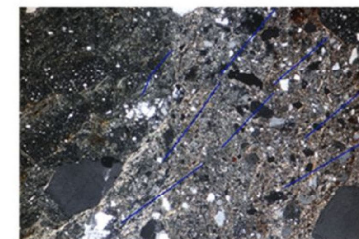
最新活動面



赤枠内の拡大



赤枠内の拡大



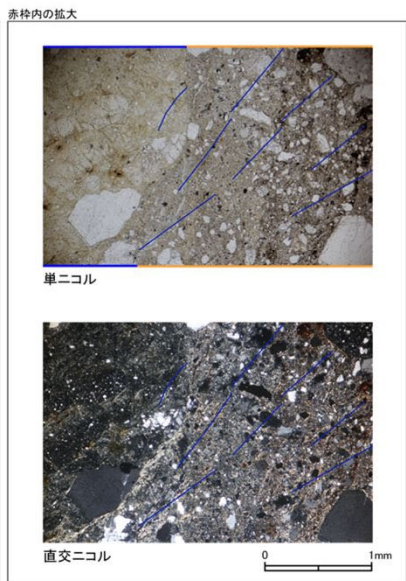
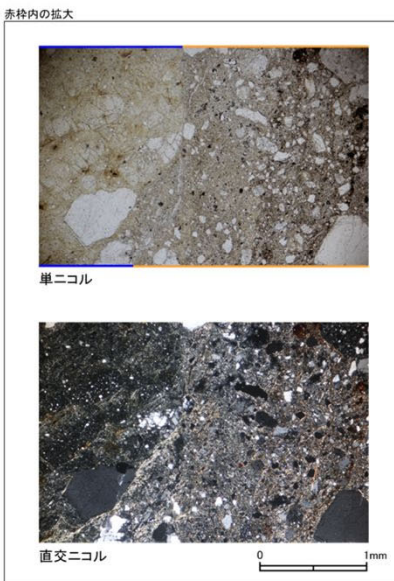
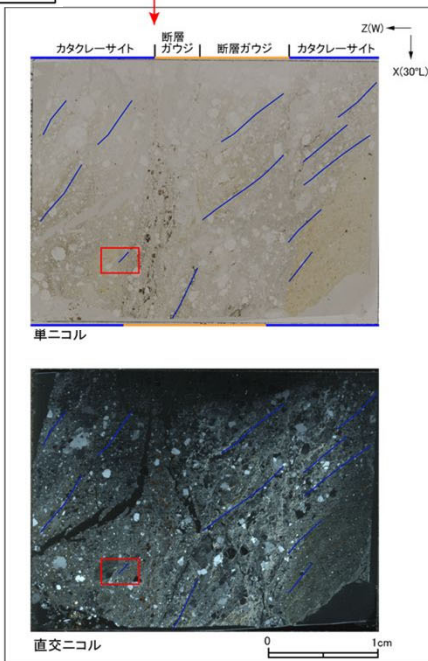
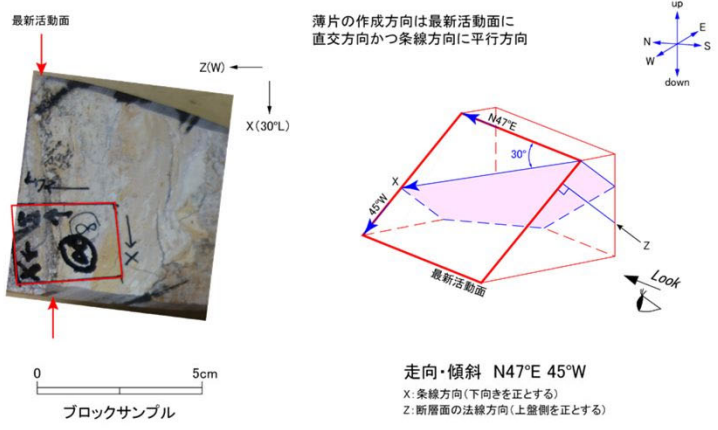
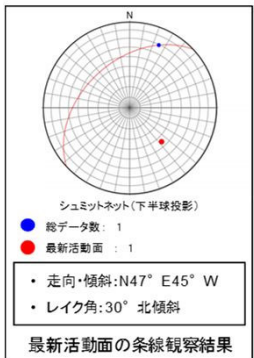
- 凡例
- 断層ガウジ
  - カタクレーサイト
  - R1面
  - P面

# H27-B-1 深度49.17~49.22m 非モデル化破砕部 (1/2)

修正箇所 : 修正箇所 修正後

・H27-B-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度49.17m)の変位センスは、右ずれを伴う正断層である。  
 ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層岩区分の考え方に照らして、断層ガウジを伴う破砕部であると判断した。

- 基質は粘土鉱物を主体とする。
- 組織は漸移的に変化する。
- 岩片は少ない。
- 角ばった岩片が多い。
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。
- ジグソー状の角礫群が認められる。




- 凡例
- 断層ガウジ
  - カタクレーサイト
  - R1面
  - P面

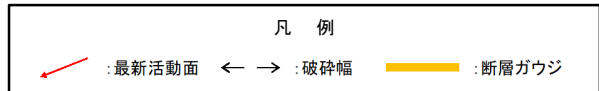
# (参考)H27-B-1 深度49.17~49.22m 非モデル化破碎部の補足説明

: 修正箇所


当該破碎部については、性状一覧表の最新活動面の表示位置が誤っていた(誤:49.20m, 正:49.17m)。なお、薄片試料は正しい位置で観察している。

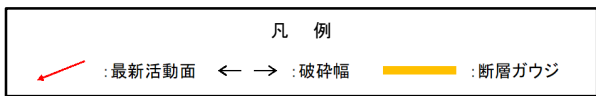
修正前  
(第833回審査会合 机上配布資料2)

断面図上の番号	確認箇所	破碎帯範囲		走向	傾斜	破碎幅 (cm)	断層ガウジ・断層角線の幅 (cm)	最新活動面		条線方向	変位センス		写真
		上端深度 (m)	下端深度 (m)					明瞭なせん断構造	平滑さ		鉛直	水平	
⑧	H27-B-1 (傾斜45°)	49.17	49.22	N47E	45W	3.0	1.5	無	-	30L	正	右	



修正後

断面図上の番号	確認箇所	破碎帯範囲		走向	傾斜	破碎幅 (cm)	断層ガウジ・断層角線の幅 (cm)	最新活動面		条線方向	変位センス		写真
		上端深度 (m)	下端深度 (m)					明瞭なせん断構造	平滑さ		鉛直	水平	
⑧	H27-B-1 (傾斜45°)	49.17	49.22	N47E	45W	3.0	1.5	無	-	30L	正	右	



注)性状一覧表については今後提出予定

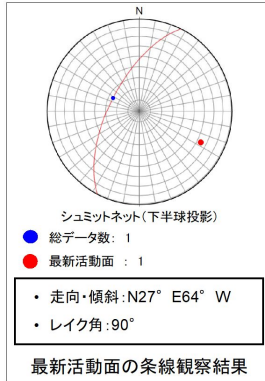
余白

# 非モデル化破碎部 薄片試料観察(H27-B-1 深度53.17m)

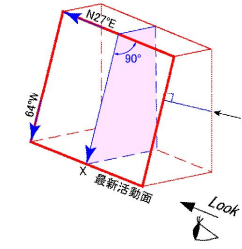
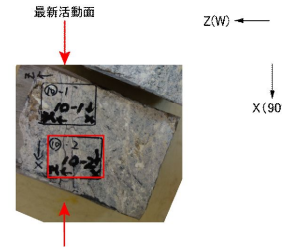
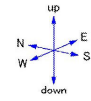
   : 修正箇所

修正前

H27-B-1のボーリングコア(深度53.17m)から採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面の変位センスは、正断層成分が卓越する。

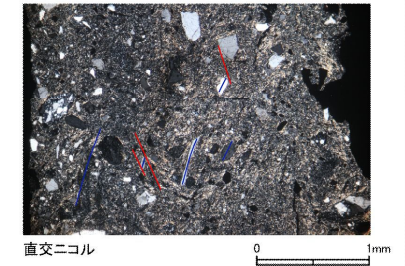
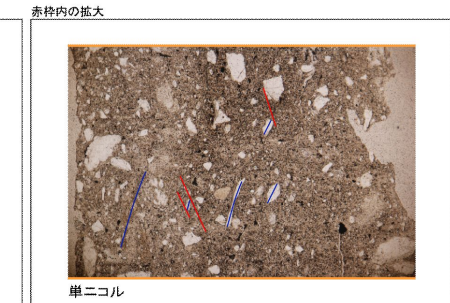
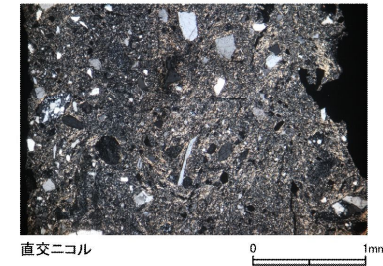
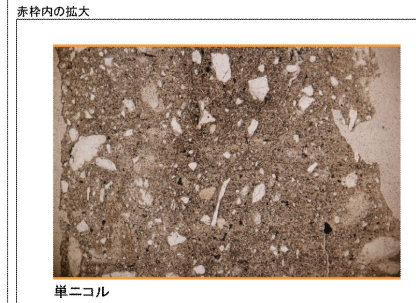
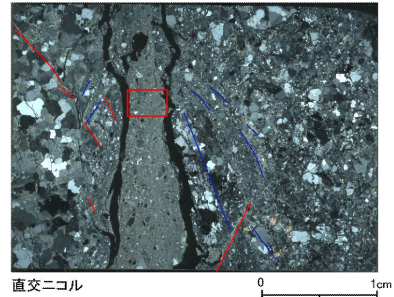
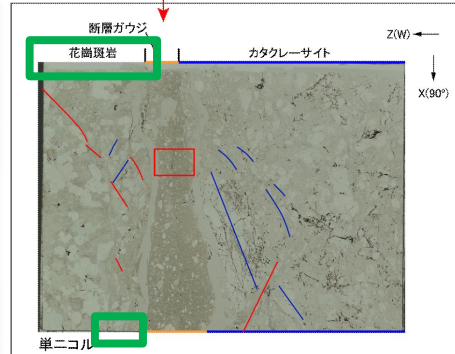
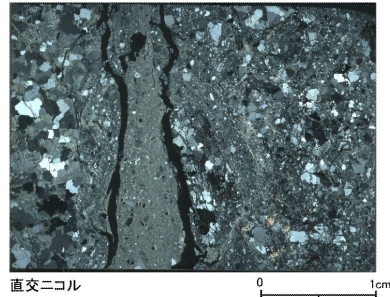
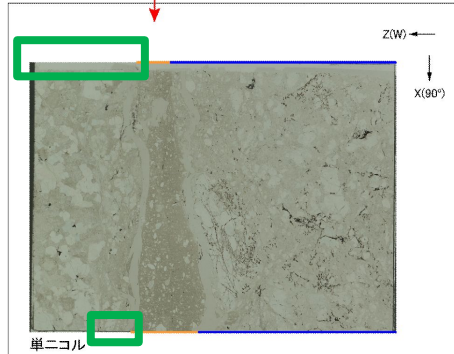


薄片の作成方向は最新活動面に  
直交方向かつ条線方向に平行方向



0 10cm  
ブロックサンプル

走向・傾斜 N27°E 64°W  
 X: 条線方向(下向きを正とする)  
 Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)



- 凡例
- 断層ガウジ
  - カタクレーサイト
  - R1面
  - P面

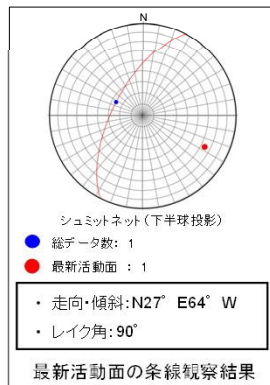


# H27-B-1 深度53.17~53.22m 非モデル化破碎部 (1/2)

   : 修正箇所

修正後

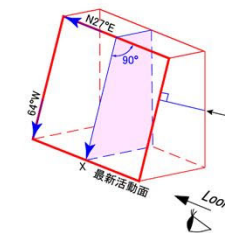
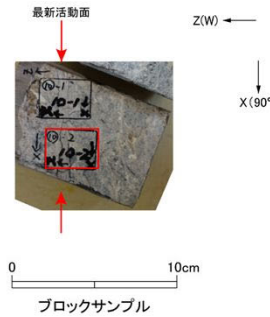
- ・H27-B-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度53.17m)の変位センスは、正断層成分が卓越する。
- ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層岩区分の考え方に照らして、断層ガウジを伴う破碎部であると判断した。
  - 基質は粘土鉱物を主体とする。
  - 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
  - 岩片は少ない。
  - 丸みを帯びている岩片が多い。



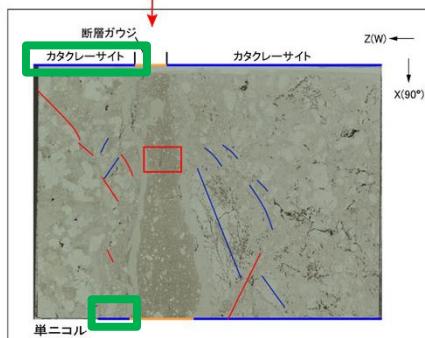
最新活動面の条線観察結果

最新活動ゾーン

薄片の作成方向は最新活動面に  
直交方向かつ条線方向に平行方向



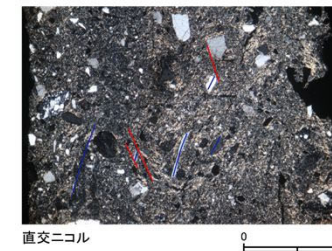
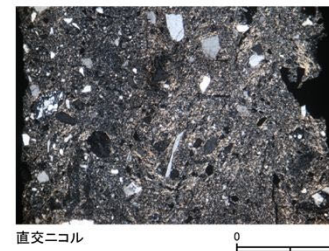
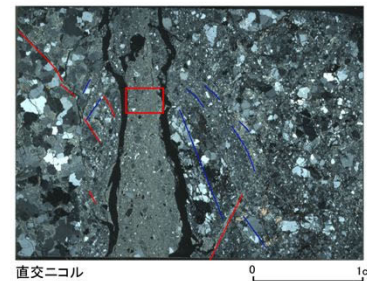
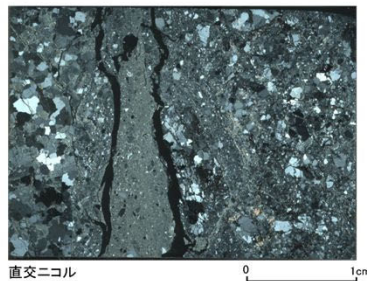
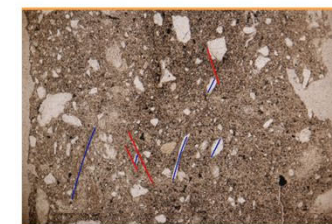
走向・傾斜 N27°E 64°W  
 X: 条線方向(下向きを正とする)  
 Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)



赤枠内の拡大



赤枠内の拡大



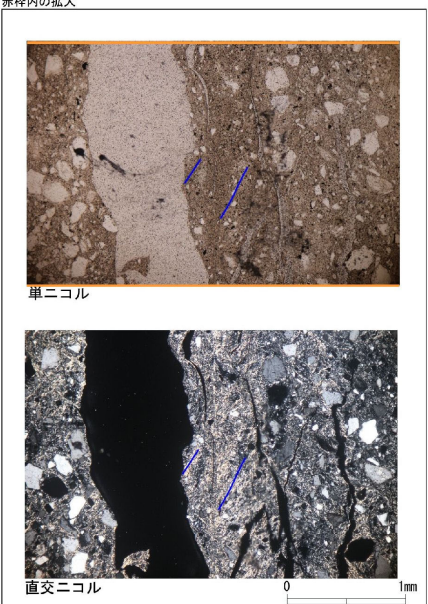
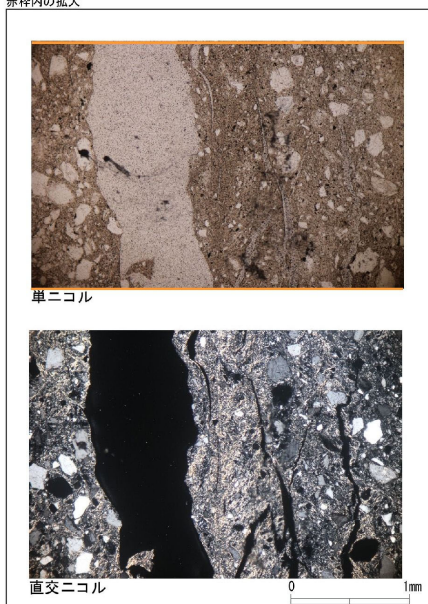
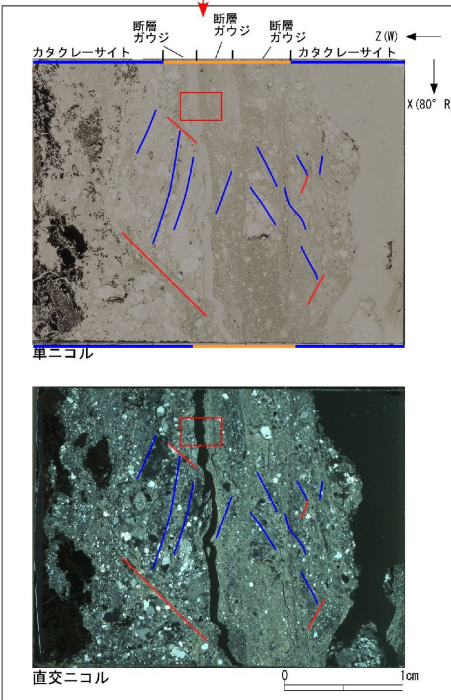
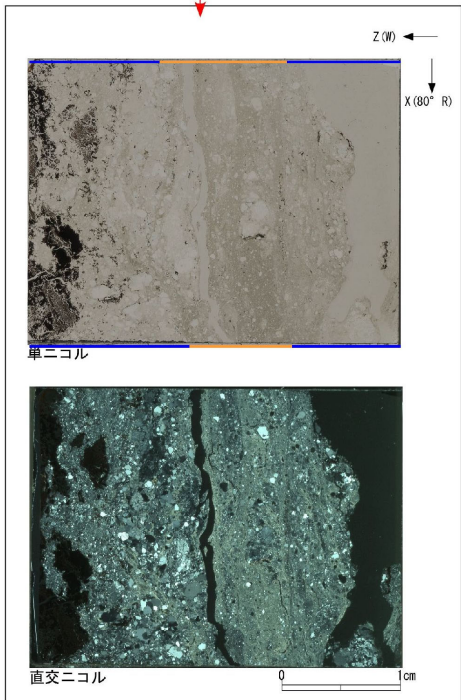
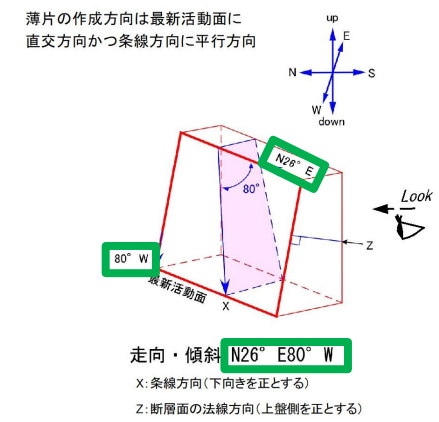
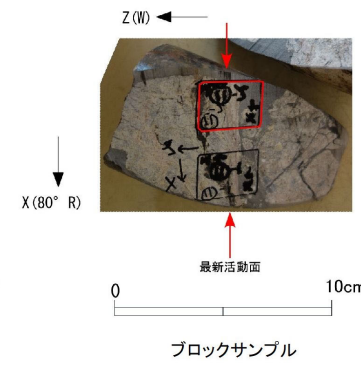
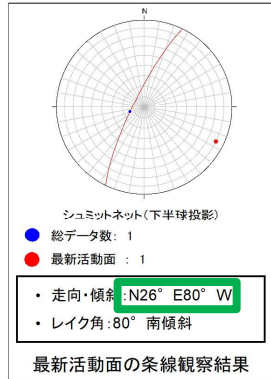
- 凡例
- 断層ガウジ
  - カタクレーサイト
  - R1面
  - P面

# D-1破砕帯 薄片試料観察(H27-B-1 深度59.85m)

修正箇所

修正前

H27-B-1のボーリングコア(深度59.85m)から採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面の変位センスは、正断層成分が卓越する。



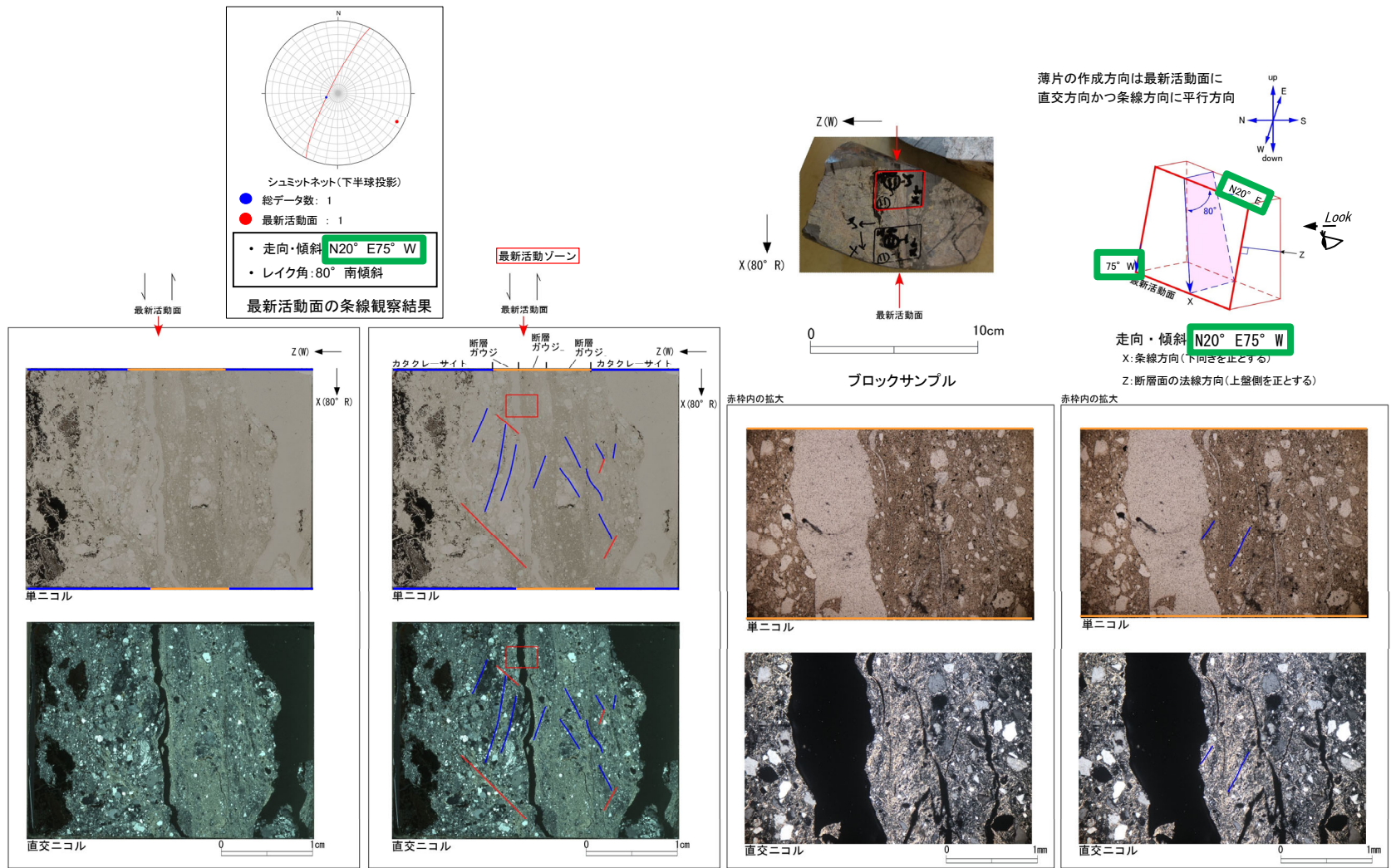
- 凡例
- 断層ガウジ
  - カタクレーサイト
  - R1面
  - P面

# H27-B-1 深度59.82~59.85m D-1破碎帯 (1/2)

修正箇所 : 修正後

・H27-B-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度59.85m)の変位センスは、正断層成分が卓越する。  
 ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層岩区分の考え方に照らして、断層ガウジを伴う破碎部であると判断した。

- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- 丸みを帯びている岩片が多い。



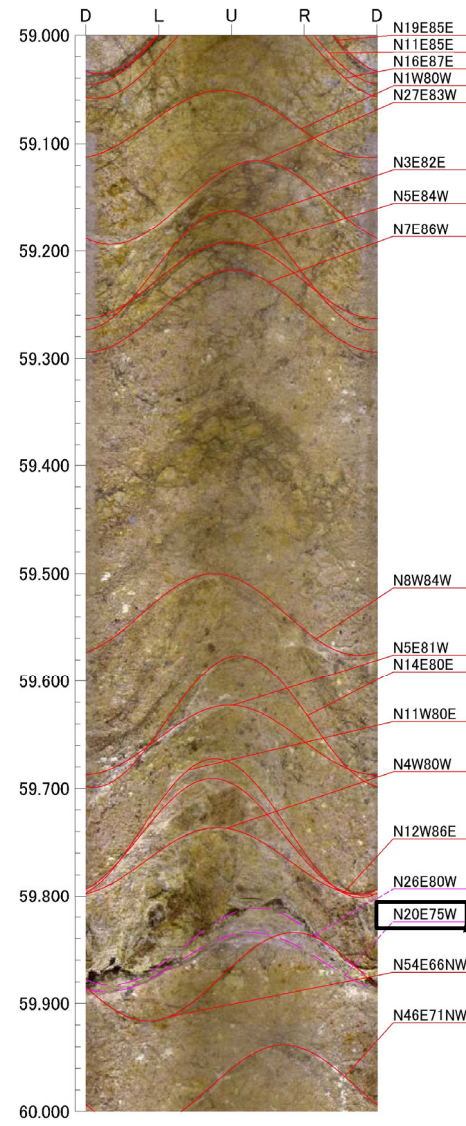
# (参考)H27-B-1 深度59.82~59.85m 走向・傾斜

当該破碎部の走向・傾斜はBHTV孔壁展開画像で確認している。



凡例  
 : 最新活動面 ← → : 破碎幅 : 断層ガウジ

コア写真  
 (第833回審査会合 机上配布資料2)



当該破碎部の正しい走向・傾斜

BHTV孔壁展開画像

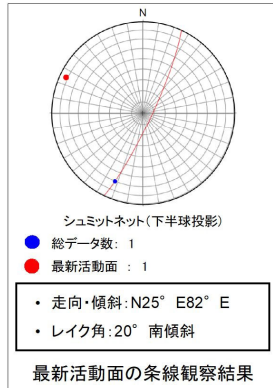
余白

# 非モデル化破碎部 薄片試料観察 (H27-B-1 深度69.70m)

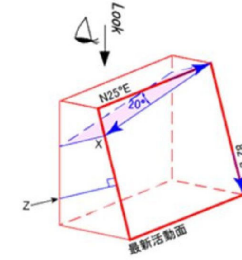
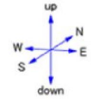
   : 修正箇所

修正前

H27-B-1のボーリングコア(深度69.70m)から採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面の変位センスは、右ずれ成分が卓越する。

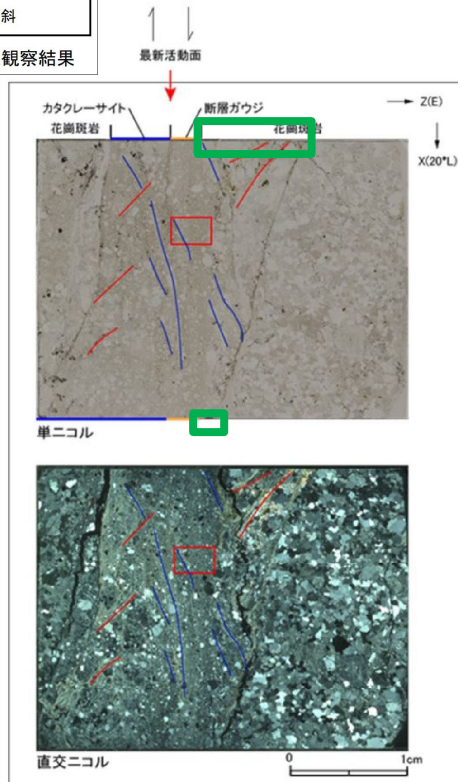
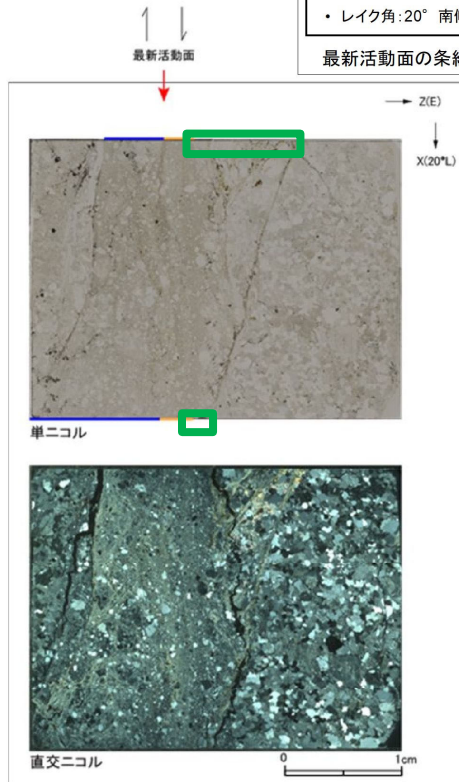


薄片の作成方向は最新活動面に  
直交方向かつ条線方向に平行方向

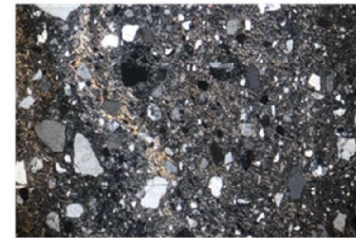


走向・傾斜 N25°E 82°E  
X: 条線方向(下向きを正とする)  
Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)

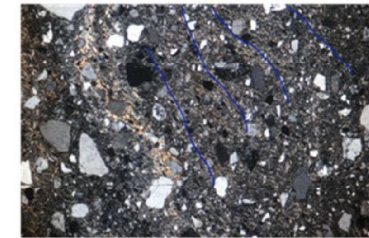
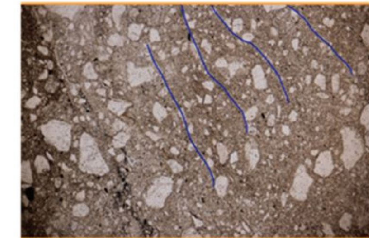
※切断面に記載されているZ方向は誤り



赤枠内の拡大



赤枠内の拡大

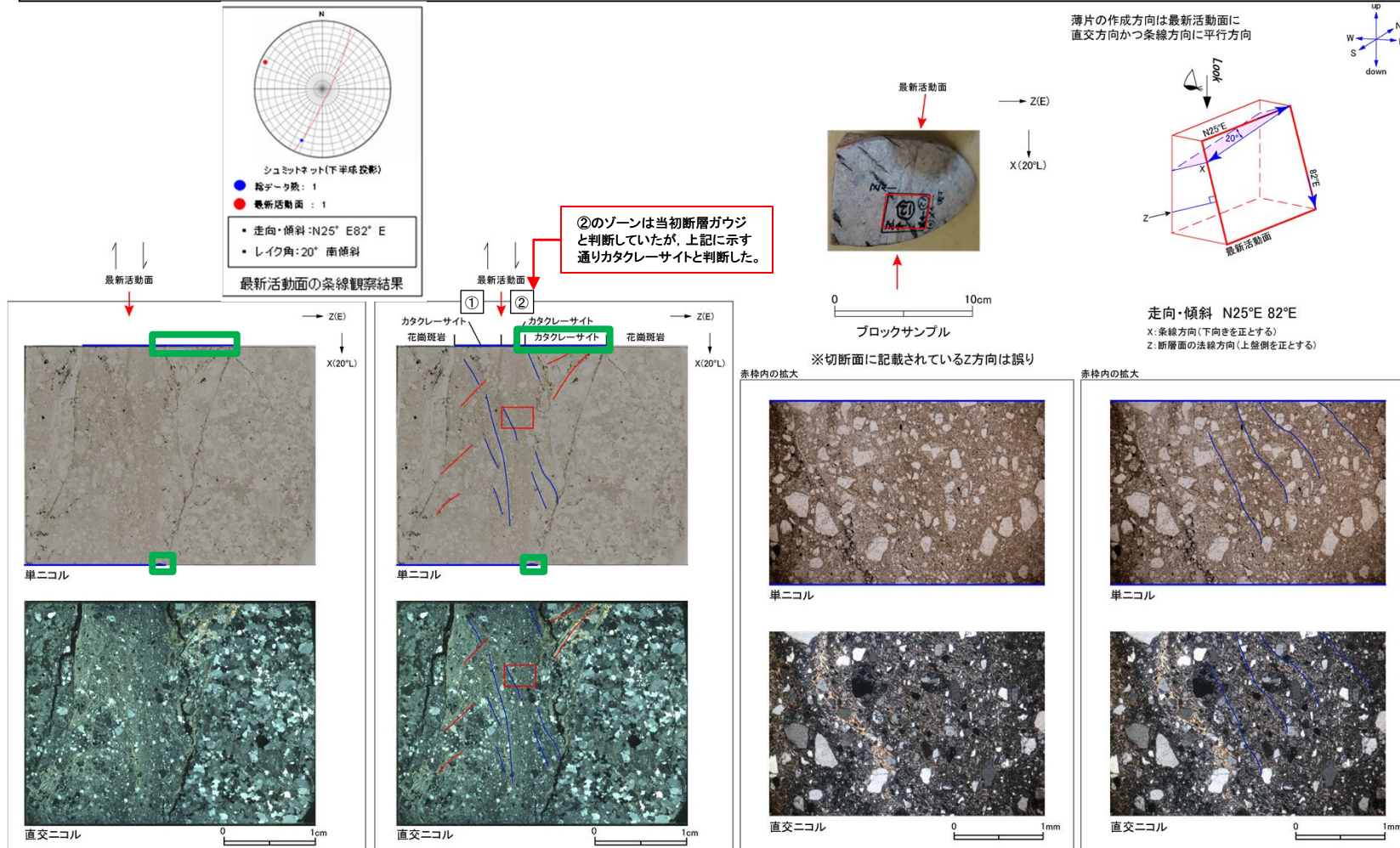


- 凡例
- 断層ガウジ
  - カタクレーサイト
  - R1面
  - P面

# H27-B-1 深度69.70~69.73m 非モデル化破碎部 (1/3)

   : 修正箇所 修正後

- ・H27-B-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度69.70m)の変位センスは、右ずれ成分が卓越する。
- ・断層岩区分については、ゾーン(②)はカタクレーサイトと評価したゾーン(①)より細粒であり、破碎流動も比較的少ない。また、全体的に粘土鉱物が認められることから、断層ガウジと判断していた。(第833回 机上配布資料1)なお、ゾーン(①)にはジグソー状の角礫群などのカタクレーサイトと示す特徴が認められる。
- ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、②のゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層岩区分の考え方に照らして、カタクレーサイトのみからなる破碎部であると判断した。
  - 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
  - 組織は漸移的に変化する。
  - 角ばった岩片が多い。
  - ジグソー状の角礫群が認められる。
  - 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。

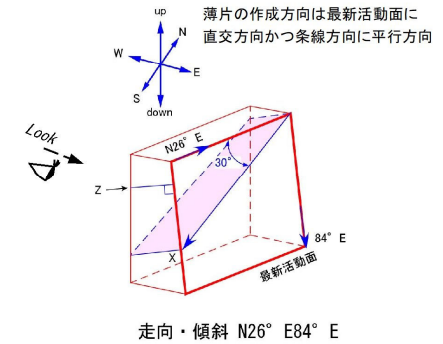
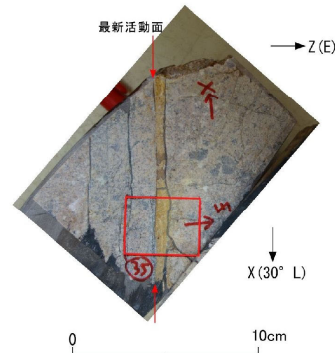
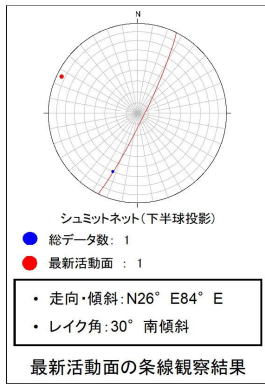


# D-41破砕帯 薄片試料観察(H27-B-2 深度88.43m)

 :修正箇所

修正前

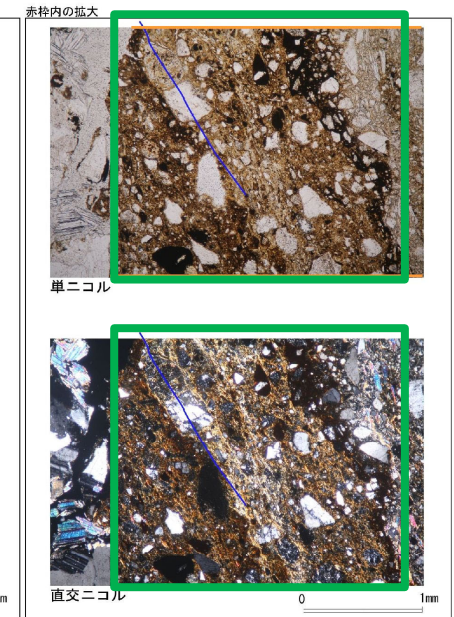
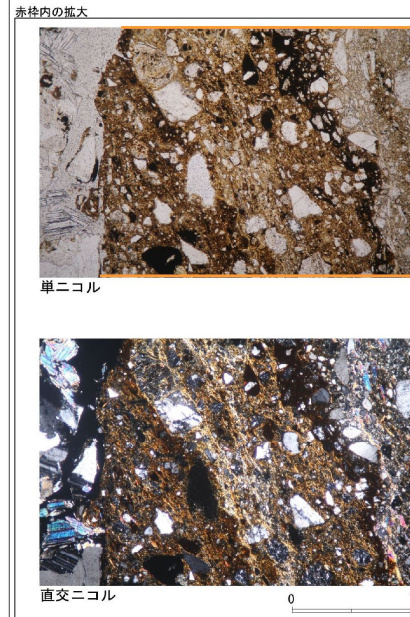
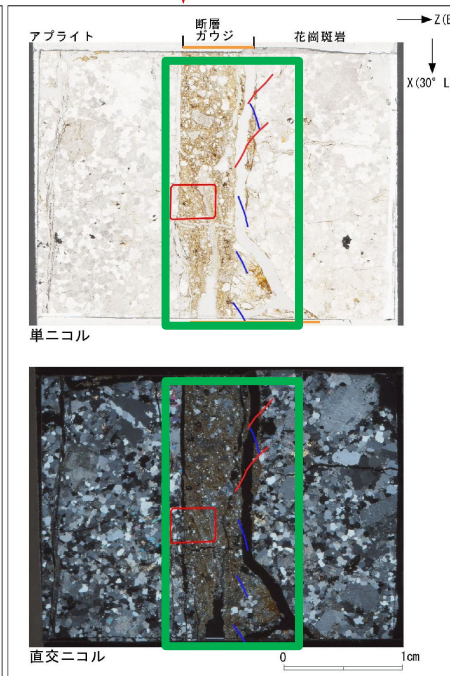
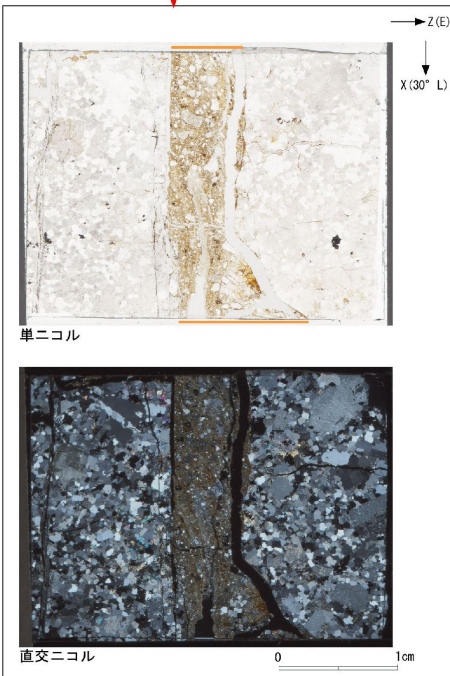
H27-B-2のボーリングコア(深度88.43m)から採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面の変位センスは、右ずれを伴う正断層である。



※切断面に記載されているX方向は誤り

ブロックサンプル

X: 条線方向(下向きを正とする)  
Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)



- 凡例
- 断層ガウジ
  - カタクレーサイト
  - R1面
  - P面

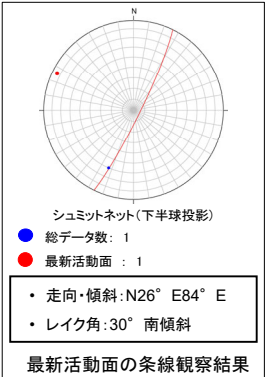


# H27-B-2 深度88.38~88.43m D-41破碎帯 (1/2)

   : 修正箇所 修正後

・H27-B-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度88.43m)の変位センスは、右ずれを伴う正断層である。  
 ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層岩区分の考え方に照らして、断層ガウジを伴う破碎部であると判断した。

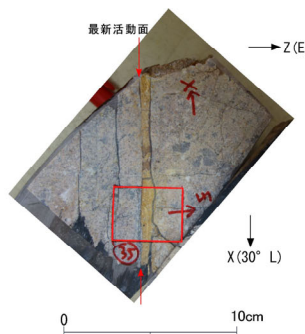
- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- 角ばった岩片が多い。
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。



最新活動面

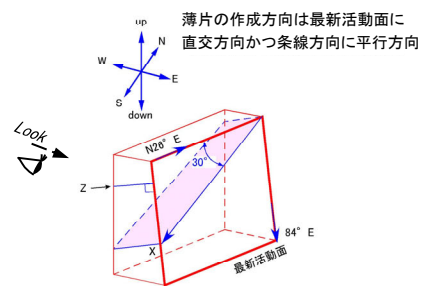
最新活動ゾーン

最新活動面



※切断面に記載されているX方向は誤り

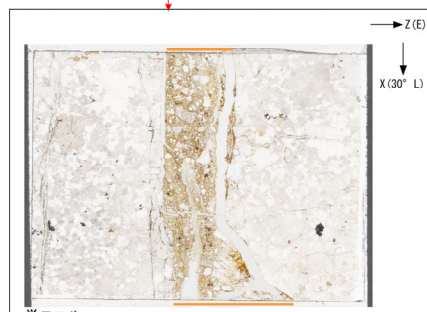
ブロックサンプル



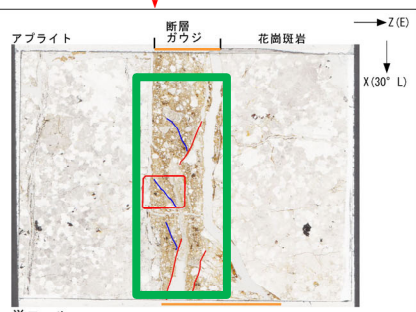
走向・傾斜 N26° E84° E

X: 条線方向(下向きを正とする)

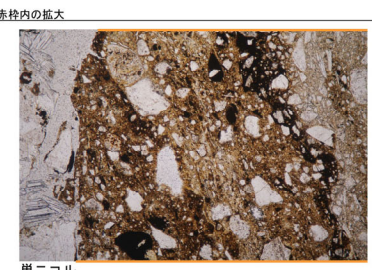
Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)



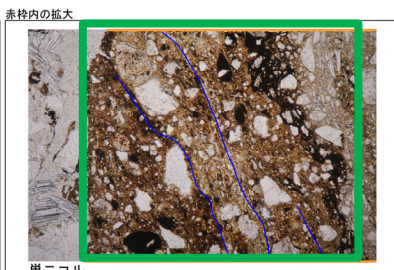
単ニコル



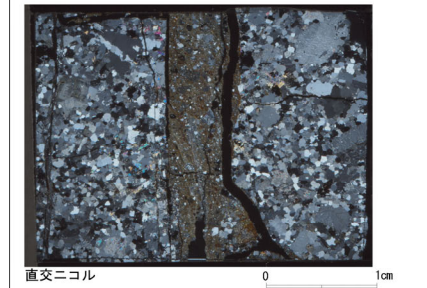
単ニコル



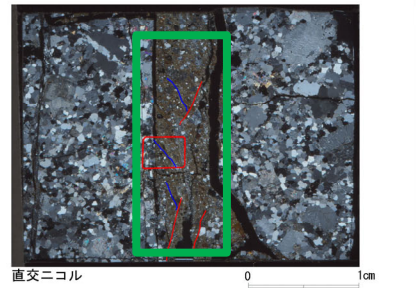
単ニコル



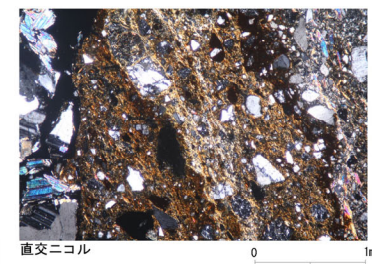
単ニコル



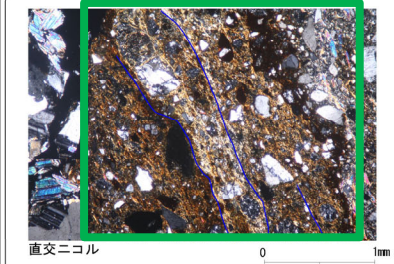
直交ニコル



直交ニコル



直交ニコル



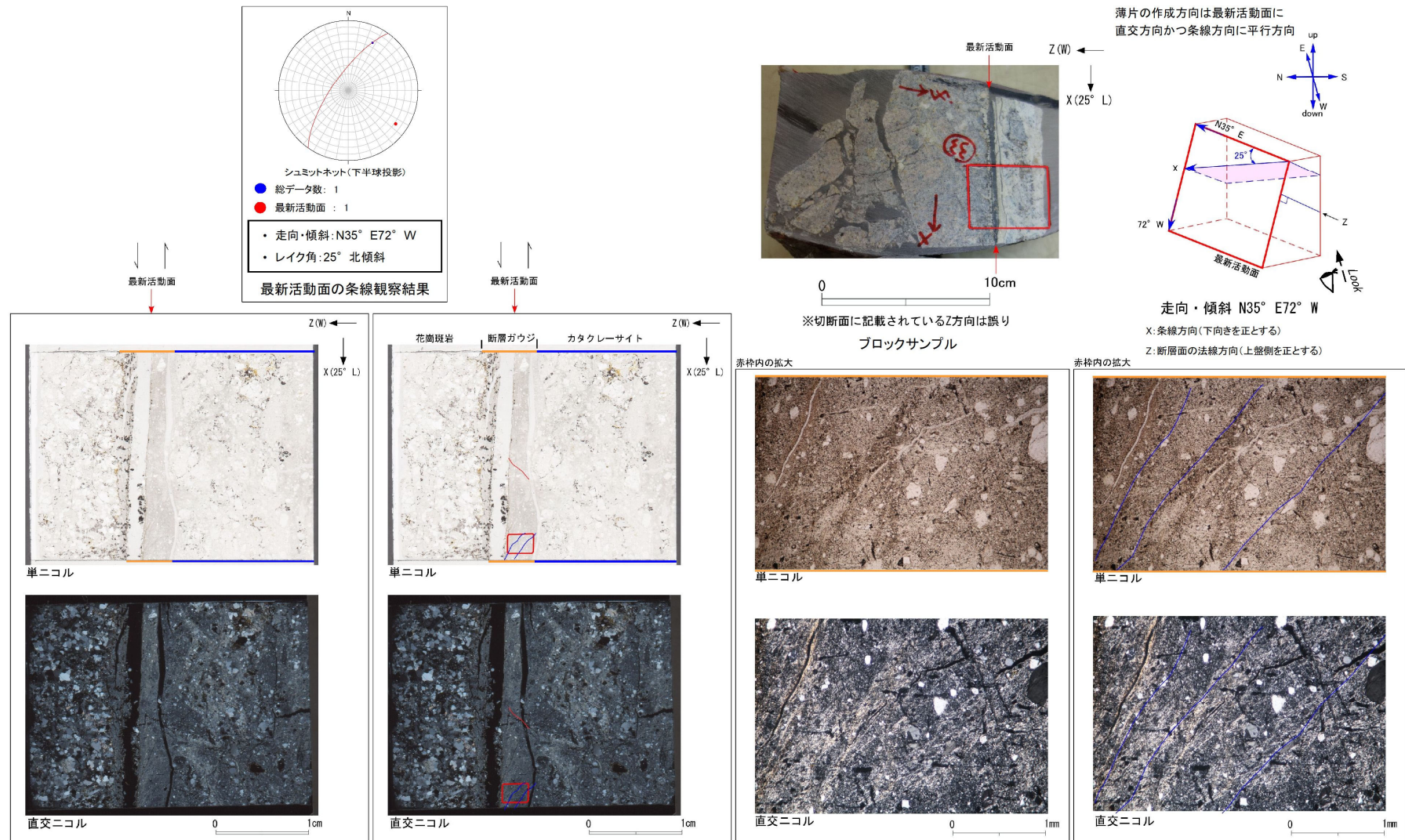
直交ニコル

- 凡例
- 断層ガウジ
  - カタクレースイト
  - R1面
  - P面

f-b-2-14破砕帯 薄片試料観察(H27-B-2 深度88.94m)

修正箇所

H27-B-2のボーリングコア(深度88.94m)から採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面の変位センスは、右ずれを伴う正断層である。



- 凡例
- 断層ガウジ
  - カタクレーサイト
  - R1面
  - P面